

令和元年度指定

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

(プロフェッショナル型)

令和3年度 研究実施報告書 【第3年次】



未来を創るのは誰だ



京都府立

京都すばる高等学校

目次

はじめに	1
1 本校について	3
(1) 設置学科及び学科方針	
(2) 校名の由来	
(3) 教育方針	
(4) 学校経営方針	
(5) 令和3年度の重点目標	
(6) 生徒在籍一覧	
(7) 在校生の出身中学別一覧	
(8) 教育課程(3学年)	
2 研究開発の概要と計画	9
(1) 研究開発概要(令和元年度申請時)	
(2) 実施計画書(令和2・3年度)	
3 研究開発のデザイン	19
(1) 構想図	
(2) 成果概要図(1年目・2年目・3年目)	
(3) 地域協働グラフィックレコーディング	
4 研究開発報告	
(1) 研究開発名	31
(2) 研究開発概要	31
(3) 研究開発による生徒の変容(3年間の取り組みによる生徒の変化)	33
(4) 研究開発の実績	
ア 令和3年度実施状況	38
イ グランドデザイン・ループリック・グラフィックレコーディングの活用	42
ウ 学科による体系的カリキュラムの開発	51
エ 地域課題解決型授業の実施(3年間の学びの軌跡)	53
オ コンソーシアム会議の実施	132
カ 運営指導委員会の実施	133
キ 地域協働学習実施支援員による地域とのコーディネート役割	135
ク カリキュラム開発等専門家によるカリキュラム開発	136
ケ 地域公共政策士資格養成に向けての取り組み	137
(5) 今後の課題と事業終了後の持続可能な仕組みづくり	138
5 地域協働応援団よりメッセージ	139
(1) 地域協働学習実施支援員	
(2) コンソーシアム会議構成員の方々	
6 地域協働事業資料集	151

はじめに

校長 貴島 良介

地域との協働による高等学校教育改革推進事業の最大のポイントは、高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うためのコンソーシアムを構築するところにあります。コンソーシアム会議の設置によって地域との協働による活動を学校の教育活動として明確化するとともに、専門人材の配置等、校内体制を構築し、学校と地域とをつなぐコーディネーターを指定し将来の地域ビジョン・求める人材像を共有し、地域協働に資する学習カリキュラムを開発することが求められています。

本校は令和元年度より、この事業のプロフェッショナル型に参加し、地域の産業界等との連携・協働による実践的な職業教育を推進してまいりました。時を同じく、本校では令和元年度入学生から商業科の学科改編を行い、起業創造科と新たな教育課程の企画科の2学科に再編し、協働的な学びを新たな学科の一つの柱とした教育課程の編成を行ってきました。今年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業の終了と同時に新学科の完成年度を迎えることとなりますが、その過程において起業マネジメント、グローバルビジネスといった学校設定科目あるいは課題研究において、本事業の具体的な取り組みが進められ、様々な機関あるいは個人との協働的な学びが展開されることとなりました。

中央教育審議会では「教育課程部会における審議のまとめ」『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が取りまとめられ、今後の教育課程の在り方について、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなる ICT も最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められるとされています。

このように協働的な学びは、これからの日本の教育の一つの柱となっていきますが、何故協働的な学びは、共同や協同ではないのでしょうか。これは私の個人的な見解ですが、「共」ではなく「協」である理由は、「力を合わせる」かどうかです。例えば共同浴場という言葉には「一緒に」という意味は含まれますが「力を合わせる」という意味は含まれません。協同組合という言葉には同業者が力を合わせるという意味が含まれます。また、「同」ではなく「働」である理由は、その字の持つ意味そのものですが「働く」という意味が大切だからではないでしょうか。ここにこの協働学習の大切な役割があると思います。「働く」あるいは「仕事をする」という行為は、誰か他人に貢献する行為です。これが地域とつながる時に大切な意味を果たします。学校は地域の教育力を必要としています。これまで学校が自前で担ってきた教育機能をこれからも自前で行っていくことはできません。そこで、通学路の見守りや部活動といった役割を地域に担っていただきたいと思っています。ただ

これでは一方的に学校が助けていただいているだけです。一方で地域にも様々な課題があります。その課題は地域の実情において様々です。そのような課題解決、地域への貢献を目指して生徒が地域と一緒に働くことが大切です。さらに職業系専門学科であれば、その実践力を地域のために発揮することになります。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業の研究指定が今年度をもちまして3年間の経過し終了する運びとなりました。この間、文部科学省初等中等教育局、京都府教育委員会におかれましては研究実施に当たり様々な御支援を賜りました。コンソーシアム会議、運営指導委員会のみなさまには事業実施に当たり、立場の異なる方々から視点の異なる御意見を頂戴できたことはまさに協働のあるべき姿です。カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員のみなさまには、授業にも入っていただき、検討会議を年間60回ほど重ね、この研究事業を力強く支えていただきました。本事業の中で展開された連携授業を支えていただいた、行政機関や教育機関、あるいは企業様には、業務が多忙な中、本校へ足をお運びいただきました。このように3年間の間、多くの方々に支えていただいたからこそ、この事業が実りあるものになりました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

最後にこの協働事業が日本の新たな教育の礎になることを祈念し、御挨拶とさせていただきます。

Ⅰ 本校について

(1) 設置学科及び学科方針

＜ 起業創造科 ＞ **Entre & Creative Field** (学科イニシャル: e)

マネジメントと会計に関する分野の知識と技術を習得し、地域課題の解決を通して主体性や創造力を養う。さらに大学や企業と連携して、ビジネスの視点から地域社会に貢献できるアントレプレナーシップ(起業家精神)を身につける。

＜ 企画科 ＞ **Planning Field** (学科イニシャル: p)

マーケティングとビジネス情報に関する分野の知識と技術を習得し、商品開発やマルチメディア作品の制作を通して企画力と表現力を養う。さらに京都の観光ビジネスを題材として、グローバル化を続ける経済社会に貢献できるコミュニケーション力を身につける。

＜ 情報科学科 ＞ **Intelligent Field** (学科イニシャル: i)

高度情報通信社会の中で合理的に問題を解決できる論理的・数理的な思考力を養うとともに、情報技術に関する分野の知識と技術を習得し、社会の発展に主体的に寄与できる能力と態度を身につける。

(2) 校名の由来

「京都すばる」の校名は「統(す)ばる」からきた言葉でまとまるという意味です。商業に関する学科と情報に関する学科がひとつになる専門高校という意味が含まれています。冬の天頂に輝く星群「すばる」は、美しく若い星であり、清々しい高校生たちを彷彿させるもので、本校の教育目標に合致します。

「す」 *Specialists for the future society* (未来社会のスペシャリスト)

主体的、継続的に学ぶ意欲を持ち、深い専門性を備えた人間を育成する。

「ば」 *Balance of humanity* (バランスのとれた人間)

広い教養と豊かな情操を持ち、確かな学力を備えた質実清楚な人間を育成する。

「る」 *Route to great success* (大いなる成功への道)

創造力と豊かな国際感覚を持ち、社会に貢献できる人間を育成する。

(3) 教育方針

- ア 広い教養と豊かな情操を持ち、確かな学力を備えた質実清楚な人間を育成する。
- イ 主体的、継続的に学ぶ意欲を持ち、深い専門性と新たな分野への適応力を備えた人間を育成する。
- ウ 創造力と豊かな国際感覚を持ち、社会に貢献できる人間を育成する。
- エ 日本の伝統や文化を重んじるとともに、社会変動の激流の中でも生き抜く体力と知力を備えた人間を育成する。

オ 正しい倫理観と正義感をあわせ持ち、深い他者理解の精神を備えた人間を育成する。

(4) 学校経営方針

ア 全教職員が協働し、生徒一人ひとりのキャリア形成を意識した特色ある商業と情報の職業に関する専門教育を推進する。

イ 超スマート社会(Society5.0)の到来を見据え教育の情報化を推進する。

ウ ファシリテーション能力やICT活用指導力等、教職員の資質能力向上に努め、生徒一人ひとりの能力と個性を大切に教育を推進する。

エ 地域社会や大学・企業との連携を深め、地域に開かれた教育課程を実施する。

オ 生徒ひとり一人が安心感と達成感を感じ、挑戦する心を育む教育を推進する。

カ 文部科学省研究指定事業の研究成果を生かした魅力ある専門教育を推進することにより、本校のみならず京都府の商業教育・情報教育の発展に貢献する。

キ 新型コロナウイルス感染症に対応した「学校の新しい生活様式」を踏まえた衛生管理を徹底する。

(5) 令和3年度の重点目標

ア 凡事徹底

イ 教育の情報化促進

ウ 基本的学習習慣の確立

エ 専門学科の専門性の徹底

オ 人権教育を教育活動全体に適切に位置づけ実践

カ 新型コロナウイルス感染症への対応

キ 生徒募集活動の充実

(6) 生徒在籍一覧

学科	1 年		2 年		3 年		合 計		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
起 業 創 造 科	45	37	46	59	43	58	134	154	288
企 画 科	36	58	43	65	24	72	103	195	298
情 報 科 学 科	59	11	64	10	60	11	183	32	215
男 女 合 計	140	106	153	134	127	141	420	381	801
合 計	246		287		268		801		

(令和3年5月1日現在)

(7) 在校生の出身中学別一覧

	地区	中学校名	1年	2年	3年	総計
1	北区	加茂川	1			1
2		西賀茂		1	1	2
3		旭丘	1	2		3
4		衣笠	1	4		5
5	上京区	上京		1		1
6	中京区	二条			3	3
7		北野		1		1
8		朱雀			1	1
9	下京区	中京			1	1
10		七条			2	2
11	南区	下京		4	1	5
12		八条	1	1	1	3
13		九条	3	7	2	12
14		洛南	3	5	2	10
15		凌風	1		2	3
16	左京区	久世	1	2	2	5
17		高野		1		1
18		近衛	1	1		2
19		修学院	3	5	1	9
20		洛北		1	1	2
21	東山区	下鴨	1			1
22		開晴		1	1	2
23	山科区	東山泉	3	1		4
24		山科			3	3
25		勸修	2	1	1	4
26		大宅			1	1
27		安祥寺	1		1	2
28	右京区	音羽	1	3	2	6
29		花山		1		1
30		蜂ヶ岡		1	1	2
31		西京極	1		3	4
32		梅津		3		3
33	西京区	西院			1	1
34		桂	1	4	2	7
35		松尾			1	1
36	伏見区	桂川			1	1
37		檜原	1	1		2
38		大枝	1			1
39		西陵			1	1
40	伏見区	深草	2	6	3	11
41		藤森	5	5	5	15
42		桃山	7	6	4	17
43		伏見	17	10	8	35
44		神川	10	6	15	31
45		醍醐	1	2	1	4
46		春日丘	4	6	2	12
47		小栗栖	2	6		8
48		栗陵	2	1	2	5
49		桃陵		4	3	7
50	伏見区	向島秀蓮	4	11	5	20
51		向島東	2	5	5	12

	地区	中学校名	1年	2年	3年	総計
52	伏見区	洛水		3	2	5
53		大淀	4	2		6
54	乙訓	西ノ岡			2	2
55		長岡	1		1	2
56		長岡第三	1	3	1	5
57	山城	大山崎		1	1	2
58		宇治	4	6	5	15
59		西宇治	11	18	5	34
60		南宇治	4		2	6
61		北宇治	16	14	16	46
62		西小倉	5	7	11	23
63		東宇治	6	9	7	22
64		木幡	6	6	8	20
65		槇島	4	5	7	16
66		広野	6	3	13	22
67		黄檗	5	11	4	20
68		城陽	5	2	2	9
69		南城陽	7	8	3	18
70		西城陽	9	4	5	18
71		東城陽	5	1	5	11
72		北城陽	2	2	1	5
73		男山		3	2	5
74	男山第二	2	3	5	10	
75	男山第三		4	3	7	
76	男山東	1	1	5	7	
77	田辺	12	16	3	31	
78	大住	4	3	7	14	
79	培良	3	3	11	17	
80	木津	2	1	1	4	
81	木津第二		1	4	5	
82	木津南	5	4	6	15	
83	泉川	1			1	
84	山城	3	4	4	11	
85	久御山	15	4	2	21	
86	泉ヶ丘		2	2	4	
87	維孝館	2		3	5	
88	精華	8	4	2	14	
89	精華南		5		5	
90	精華西	2		6	8	
91	笠置		1		1	
92	南丹	亀岡			1	1
93		南桑			1	1
94		東輝		1	1	2
95	中丹	亀岡川東学園	1			1
96		八木			1	1
97	六人部			1	1	
98	その他	京都教育大学附属桃山		1		1
99		京都精華学園			2	2
100		他府県		1	2	3
		計	246	287	268	801

(8) 教育課程 (3 学年)

平成31年度入学生教育課程

学年	学科	5					10					15					20					25					30				
		1	起業創造科	国語総合 (5)					現代社会 (2)	数学 I (3)	科学と人間生活 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	ビジネス基礎 (2)	簿記 (5)					情報処理 (3)	L H R (1)								
2	起業創造科	現代文B (3)	古典B (2)	日本史A (3)	数学A (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	財務会計 I (3)	原価計算 (3)	ビジネス情報 (2)	起業マネジメント (3)	L H R (1)																	
3	起業創造科	現代文B (3)	古典B (2)	世界史A (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	音楽 I 美術 I 書道 I (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	課題研究 (3)	日本史B 数学 II (4)	起業マネジメント (3)	L H R (1)																	
												アドバンス国語A ビジネス実務 財務会計 II (2)	アドバンス英語 化学基礎 経済活動と法 (2)																		

学年	学科	5					10					15					20					25					30				
		1	企画科	国語総合 (5)					現代社会 (2)	数学 I (3)	科学と人間生活 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	ビジネス基礎 (2)	マーケティング (2)	簿記 (3)	情報処理 (3)	L H R (1)											
2	企画科	現代文B (3)	古典B (2)	日本史A (3)	数学A (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	商品開発 (3)	ビジネス情報 (4)	メディアデザイン (2)	グローバルビジネス (2)	L H R (1)																	
3	企画科	現代文B (3)	古典B (2)	世界史A (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	音楽 I 美術 I 書道 I (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	課題研究 (4)	日本史B 数学 II (4)	グローバルビジネス (2)	L H R (1)																	
												アドバンス国語A プログラミング ビジネス経済 (2)	アドバンス英語 化学基礎 経済活動と法 (2)																		

学年	学科	5					10					15					20					25					30				
		1	情報科学科	国語総合 (4)					世界史A (2)	数学 I (3)	数学A (2)	化学基礎 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	情報産業と社会 (2)	アルゴリズムとプログラム (4)	ITライセンス (4)	L H R (1)											
2	情報科学科	現代文B (2)	古典B (2)	日本史A (2)	数学 II (4)	数学B 情報の表現と管理 (2)	物理基礎 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	サイバー空間と法 (4)	アプリ開発 (4)	L H R (1)																	
3	情報科学科	現代文B (2)	現代社会 (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	情報デザイン (2)	課題研究 (5)	数学 III (5)	物理 (4)	L H R (1)																		
											アドバンス数学 倫理 (3)	アドバンス英語 情報リテラシー (2)																			

令和2年度入学生教育課程

学年	学科	5					10					15					20					25					30				
1	起業創造科	国語総合 (5)					現代社会 (2)	数学 I (3)	科学と人間生活 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	ビジネス基礎 (2)	簿記 (5)					情報処理 (3)	L H R (1)										
2	起業創造科	現代文B (3)	古典B (2)	日本史A (3)	数学A (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	財務会計 I (3)	原価計算 (3)	起業マネジメント (3)					L H R (1)													
3	起業創造科	現代文B (3)	古典B (2)	世界史A (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	音楽 I 美術 I 書道 I (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	課題研究 (3)	日本史B 数学 II (4)	ビジネス情報 (2)	起業マネジメント (3)	L H R (1)																	

学年	学科	5					10					15					20					25					30				
1	企画科	国語総合 (5)					現代社会 (2)	数学 I (3)	科学と人間生活 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	ビジネス基礎 (2)	マーケティング (2)	簿記 (3)	情報処理 (3)	L H R (1)													
2	企画科	現代文B (3)	古典B (2)	日本史A (3)	数学A (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	商品開発 (2)	メディアデザイン (2)	ビジネス情報 (3)	グローバルビジネス (2)	L H R (1)																
3	企画科	現代文B (3)	古典B (2)	世界史A (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	音楽 I 美術 I 書道 I (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	課題研究 (4)	日本史B 数学 II (4)	ビジネス実務 (2)	グローバルビジネス (2)	L H R (1)																	

学年	学科	5					10					15					20					25					30				
1	情報科学科	国語総合 (4)					世界史A (2)	数学 I (3)	数学A (2)	化学基礎 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	情報産業と社会 (2)	アルゴリズムとプログラム (4)	ITライセンス (4)	L H R (1)													
2	情報科学科	現代文B (2)	古典B (2)	数学 II (4)		物理基礎 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	サイバー空間と法 (4)	アプリ開発 (4)	数学B 情報の表現と管理 (2)	L H R (1)																
3	情報科学科	現代文B (2)	現代社会 (2)	日本史A (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	情報デザイン (2)	課題研究 (5)	数学 III (5)		物理 アドバンス国語B 情報と問題解決 (4)	L H R (1)																	

令和3年度入学生教育課程

学年	学科	5			10			15			20			25			30		
1	起業創造科	国語総合 (5)			現代社会 (2)	数学 I (3)	科学と人間生活 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	ビジネス基礎 (2)	簿記 (5)			情報処理 (3)	L H R (1)		
2	起業創造科	現代文B (3)	古典B (2)	日本史A (3)	数学A (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	財務会計 I (3)	原価計算 (3)	起業マネジメント (3)	L H R (1)					
3	起業創造科	現代文B (3)	古典B (2)	世界史 A (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	音楽 I 美術 I 書道 I (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	課題研究 (3)	日本史B 数学 II (4)		ビジネス情報 (2)	起業マネジメント (3)	L H R (1)				
											アドバンス国語A ビジネス実務 財務会計 II (2)	アドバンス英語 化学基礎 経済活動と法 (2)							

学年	学科	5			10			15			20			25			30		
1	企画科	国語総合 (5)			現代社会 (2)	数学 I (3)	科学と人間生活 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	ビジネス基礎 (2)	マーケティング (2)	簿記 (3)	情報処理 (3)	L H R (1)			
2	企画科	現代文B (3)	古典B (2)	日本史A (3)	数学A (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	商品開発 (2)	ビジネス情報 (3)	メディアデザイン (2)	グローバルビジネス (2)	L H R (1)				
3	企画科	現代文B (3)	古典B (2)	世界史 A (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	音楽 I 美術 I 書道 I (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	課題研究 (4)	日本史B 数学 II (4)		ビジネス実務 (2)	グローバルビジネス (2)	L H R (1)				
											アドバンス国語A ビジネス経済 プログラミング (2)	アドバンス英語 化学基礎 経済活動と法 (2)							

学年	学科	5			10			15			20			25			30		
1	情報科学科	国語総合 (4)			世界史 A (2)	数学 I (3)	数学A (2)	化学基礎 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 I (3)	英語表現 I (2)	情報産業と社会 (2)	アルゴリズムとプログラム (4)	ITライセンス (4)	L H R (1)			
2	情報科学科	現代文 B (2)	古典B (2)	数学 II (4)		物理基礎 (2)	体育 (3)	保健 (1)	コミュニケーション英語 II (4)	英語表現 II (2)	家庭基礎 (2)	サイバー空間と法 (4)	アプリ開発 (4)	数学B 情報の表現と管理 (2)	L H R (1)				
3	情報科学科	現代文 B (2)	現代社会 (2)	日本史 A (2)	生物基礎 (2)	体育 (2)	コミュニケーション英語 III (4)	英語表現 II (2)	情報デザイン (2)	課題研究 (5)	数学 III (5)		物理 アドバンス国語B 情報と問題解決 (4)	L H R (1)					
											アドバンス数学 倫理 (3)	アドバンス英語 情報リテラシー (2)							

2 研究開発の概要と計画

(1) 研究開発概要（令和元年度申請書提出時）

指定期間	ふりがな	きょうとふりつきょうとすばるこうとうがっこう				②所在都道府県	京都府
2019～2021	①学校名	京都府立京都すばる高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	商業科 1 学年×6 クラス 情報科 1 学年×2 クラス 合計 8 クラス 3 学年 24 クラス規模	
商業科	211	218	225		654		
⑥研究開発構想名	『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～						
⑦研究開発の概要	<p>専門高校の特性を活かし実践を伴った探究的な学びを実現することにより、地域人材に必要な力を育成することを目的として下記の4つの研究開発を行う。</p> <p>○コンソーシアム会議の設置 ○地域課題解決型授業の実施 ○地域公共政策士の養成 ○学校ボランティアクラブの設置</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>以下3つの目的を持って研究開発を行う。</p> <p>(ア)「地域人材」育成のためのオール京都体制の組織化</p> <p>①地域学校協働活動ができるコンソーシアム会議を設立する ②高校・大学・企業・行政・NPO等オール京都体制の構成メンバーとする ③校内に専属の担当教員を設置する ④連携・協働により実施した授業についての効果の検証を行う</p> <p>(イ)「地域人材」となるべき京都の次世代を担う高校生の学習システムの開発</p> <p>①コンソーシアム会議を活用した地域社会とつながる授業を推進する ②学校設定科目・課題研究を活用した体系的・系統的カリキュラムを開発する ③すべての取組をポートフォリオ化し、目標設定から実行や振り返りができるキャリアノートを作成する ④地域社会とつながる授業を通してビジネスマインドの習得やコミュニケーション能力を育成する ⑤大学と連携した7年間の育成システムを開発する（地域人材を示す地域公共政策士の養成）</p> <p>(ウ)「地域人材」育成に向けた今回の研究成果の報告及び普及</p> <p>①本事業の研究成果報告会を実施する ②全国サミット（仮称）への参加及び発表を行う ③開発した学習システムが共有できる環境を整える</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校はビジネスを学ぶ専門高校として地域社会とかがわり、すでに地域課題解決型探究授業を実施し、地域社会からも「地域人材」を育成できる高校であると期待されている。2019年度から「起業創造科」と「企画科」の商業科2学科に再編され、「起業創造科」は、地域の問題・課題を見つけ様々な立場の人たちとの協働により、京都に住む人たちがより快適に過ごせる環境を整えることができる人材育成を目的とし、「企画科」は、京都を訪れた人たちが快適に過ごせる環境を整えることができる人材育成を目的としてスタートする。</p> <p>上記現状を踏まえ3つの研究開発の仮説を設定し効果を図る。</p> <p>(ア) 地元の企業等を加えた組織的な「地域人材」の育成は、より効果的である。</p> <p>①地域と多様なかがわりができる ②組織化することにより継続的なかがわりができる ③専属のコーディネーターを配置することによる効果が見込める</p>					

- ④生の地域の声を授業に活かすことができる
- (イ)「社会に開かれた教育課程」の実践は、生徒の成長につながる。
- ①地域との多様なかかわりの中で、地域課題をじぶんごと化し、主体的に取り組む態度の育成、課題発見をしようとする探究力や課題解決に向けた論理的思考力を高めることができる
- ②地域とかかわり課題発見および課題解決に取り組むことで、地域への愛着心を高めることができる。
- ③地域と自分のキャリアを結びつけて考え、地域における社会貢献意識を高めることができる
- (ウ)高校版「地域人材育成京都モデル」は、研究成果の普及に効果的である。
- ①高校による「地域人材」育成モデルケースとなる
- ②地域協働推進校として府内の高等学校のハブ的な役割を担う
- ③研究開発した教材を広く公開し普及させる

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

学年	学科	(単位数)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	起業創造科	ビジネス基礎(2)		提案力の育成	商店街フィールドワーク	事例学習 島根県雲南市		創造実習① 税理士会・税務署との連携「税をとおした地域作り」 【外部講師】	地域創造サミット	創造実習② 大学との連携「地域の現状と田舎を元気にするプランの考案」 【フィールドワーク】		
1	企画科	マーケティング(2)		企画実習①まちの魅力と課題を知る				企画実習②大学・地域NPOとの連携「じぶんごと化プロジェクト」 【外部講師】				
2	会計科	ファイナンス(3)		地域金融機関との連携「京都の経済を知り未来を考える」 【外部講師】			地域商店街との連携「商店街をとおした経済や京都の未来を考える」 【外部講師】					
2	企画科	商品開発(3)		地元企業との連携(京都すばるデパート販売用商品開発) 【外部講師】			地域商店街との連携(店舗経営) 【外部講師】			大学との連携(ビジネスプランの考案)		
2	ビジネス探求科	京都探求(3)		京都の祭りをとおした活性化や京都の未来を考える 【外部講師】			高校との連携(京都すばるデパート販売用旅行) ※「実用英会話」と授業連携 【外部講師】					
3	会計科	課題研究(3)		地域のNPO・税理士会・小中高大などの連携(少人数制での課題解決・探究的な学び) ソーシャル・マネジメント研究、地域デザイン研究ほか 【外部講師・モバイル空間統計・フィールドワーク】								
3	企画科	課題研究(4)		地域の企業・団体・大学などの連携(少人数制での課題解決・探究的な学び) 伝統産業研究、メディア研究 ほか【WEB会議・モバイル空間統計・外部講師・フィールドワーク】								
3	ビジネス探求科	課題研究(3)		地域の企業・団体・大学などの連携(少人数制での課題解決・探究的な学び) コミュニティ・デザイン研究 ほか 【外部講師・フィールドワーク】								
教員				先進校視察、セミナー参加						先進校視察、セミナー参加		

⑧-2 具体的内容

※●印は、別紙「所要経費」を活用した取り組みである。

※★印の取り組み

①地域産品を生かし、海外(台湾)の高校生とWEB会議による共同商品開発を行う。WEB会議ではSkypeを利用するが、京都府の「みらいネット」はSkypeを使えないため、新たに高速の別回線と機材を整備する。

②伏見稲荷大社の混雑を緩和し「住んでよし・訪れてよし」の地域づくりを進めるにあたり、NTTドコモの「モバイル空間統計(訪日外国人の動態統計データ)」を活用する。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

上記実施計画を推進するために次の体制を整える

- ①コンソーシアム会議及びカリキュラム等開発専門家から指導助言を受け、校内体制を整える
- ②地域協働推進室長が研究担当者会議で校内に共有する
- ③各種会議(新学科ミーティング・教育課程検討会議・教科主任会議等)を活用する

(3) 必要となる教育課程の特例等

特になし

⑨その他特記事項

生徒出資(一人当たり1,000円)による株式会社形態の販売学習「京都すばるデパート」を実施し、年度末に総会を開催している。また、中学生の体験授業や学校へ出向いてのビジネスマナー講座を開催し、商業の学びのトビラを開く取組を実施している。

(2) 実施計画書（令和2・3年度）

令和2年1月30日

研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 京都市下京区中堂寺命婦町 1-10
管理機関名 京都府教育委員会
代表者名 教育長 橋本 幸三 印

1 指定校名・類型

学校名 京都府立京都すばる高等学校
学校長名 三橋 利彦
類型 プロフェッショナル型

2 研究開発名

『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究
～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

3 研究開発の概要

専門高校の特性を活かし実践を伴った探究的な学びを実現することにより、地域人材に必要な力を育成することを目的として、前年度の課題を踏まえ、引き続き、次の研究開発を行い、進化させる。

(1) コンソーシアム会議の深化

初年度、コンソーシアム会議については、各構成員が行っている取組を共有することが主体となっていた面があった。2年目については、それぞれの取組について相互理解を進め、連携した取組を発展させていくためにコンソーシアム会議を深めていく。

(2) 地域課題解決型授業の実施および成果の検証

初年度の取組では、地域には様々な課題があることを理解させることが中心であった。2年目については、その発見した課題を「じぶんごと」としてとらえ、考えられる人材を育成するための研究開発を進めていく。その際、運営指導委員会での意見を踏まえることはもちろん、地域の様々な機関等との連携をさらに進めながら、「じぶんごと」から「みんなごと」へ進めるために、当事者意識を養い、探究力を身につけさせていくことに重点を置いていきたい。

(3) 地域公共政策士の養成

地域公共政策士とは、「地域公共人材」の能力を保証する地域資格のことであり、社会的課題を産官学民の連携のもとに解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導及びコーディネートができる人材育成を目指している。この資格の意義や目的を地域課題解決型授業の中で、生徒、保護者に伝え、関係大学との連携授業を実施し、大学及び大学生とともに学ぶ中で、京都創生のリーダーの養成を図る。また、地域公共政策士の必要単位として先取りできるシステムについて大学及び地域公共人材開発機構と検討する。

(4) 学校ボランティアクラブの活用

部活動加入率が高いことから、生徒がボランティアと部活動の両方ができる仕組み作りを進める。例えばクラブ単位で参加することや個人で参加する機会を準備するなど、社会貢献活動への参加を促し、「地域人材」になるための資質を育成することを目指す。

- 4 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）（該当なし）
 ア 学校設定教科・科目を開設している
 イ 教育課程の特例を活用している

- 5 事業の実施期間
 契約日～令和3年3月31日

6 令和2年度の研究開発実施計画

学年	学科	(単位数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	起業創造科	ビジネス基礎(2)	オリエンテーション 年間計画	提案力の育成			● 商店街フィールドワーク	● 事例学習 石川県金沢市		● 創造実習① 税理士会・税務署との連携「税をとおした地域作り」【外部講師】	● わかものまちサミット	● 創造実習② 大学との連携「地域の現状と田舎を元気にするプランの考案」【フィールドワーク】			
1	企画科	マーケティング(2)		提案力の育成	● 企画実習①まちの魅力と課題を知る					● 企画実習②大学・地域との連携「じぶんごと化プロジェクト」【外部講師】					
2	起業創造科	起業マネジメント		● 起業家精神基礎 ・寄付の教室 ・祇園祭ごみゼロ大作戦					● PBL型実習 ・起業マネジメント領域 ・地域ビジネス領域 ・キャリアデザイン領域 ・会計プロフェッショナル領域						
2	企画科	商品開発(3)		● 地元企業との連携(京都すばるデパート販売用商品開発)【外部講師】				● 地域商店街との連携(店舗経営)【外部講師】					● 大学との連携(ビジネスプランの考案)		
3	会計科	課題研究(3)	オリエンテーション 課題設定	● 地域のNPO・税理士会・小中高大などとの連携(少人数制での課題解決・探究的な学び) ソーシャル・マネジメント研究、地域デザイン研究ほか【外部講師・フィールドワーク】								ポータルフォーリオ作成会			
3	企画科	課題研究(4)		★ 地域の企業・団体・大学などとの連携(少人数制での課題解決・探究的な学び) 伝統産業研究、メディア研究 ほか【WEB会議・外部講師・フィールドワーク】										● 台湾研修	
3	ビジネス探求科	課題研究(3)		● 地域の企業・団体・大学などとの連携(少人数制での課題解決・探究的な学び) コミュニティ・デザイン研究 ほか【外部講師・フィールドワーク】											
教員					● 先進校視察、セミナー参加					●			● 先進校視察、セミナー参加		

※●印は、別紙「所要経費」を活用した取り組みである。

※★印の取り組み

地域産品を生かし、海外(台湾)の高校生とWEB会議による共同商品開発を行う。WEB会議ではSkypeを利用するが、京都府の「みらいネット」はSkypeを使えないため、新たに高速の別回線と機材を整備する。

<添付資料>

- ・令和2年度教育課程表

7 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
コンソーシアム会議	京都すばる高等学校	京都府教育委員会
運営指導委員会	京都すばる高等学校	京都府教育委員会
研究推進委員会	京都すばる高等学校	京都すばる高等学校

運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
馬屋原 宏	京都市伏見区区長	専門的知見からの指導・助言
榊田 隆之	京都信用金庫理事長	〃
池田 武	京都府総合教育センター教師力向上総括アドバイザー	〃

※備考欄には、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、関係行政機関の職員等、運営に関して指導・助言にあたる専門の区分を記入すること

高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機 関 名	機関の代表者名
京都府教育委員会	教育長 橋本 幸三
龍谷大学	学長 入澤 崇
伏見いきいき市民活動センター	センター長 三木 俊和
京都市伏見区役所	区長 馬屋原 宏
京都文教大学	学長 平岡 聡
京都あおい税理士法人	代表 新見 和也
公益財団法人 京都地域創造基金	理事長 新川 達郎
公益財団法人 京都市ユースサービス協会	理事長 安保 千秋
認定特定非営利活動法人グローバル人材開発センター	代表理事 榎田 隆之
京都府立京都すばる高等学校	校長 三橋 利彦

カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	深尾 昌峰	龍谷大学政策学部 教授	外部講師
カリキュラム開発等専門家	行元 沙弥	認定特定非営利活動法人 グローバル人材開発センター 専務理事付	外部講師
地域協働学習実施支援員	三木 俊和	伏見いきいき市民活動セ ンター センター長	外部講師

「起業マネジメント」及び「グローバルビジネス」のカリキュラム開発のため、令和2年度からカリキュラム開発等専門家として、行元沙弥様に参画していただき、併せてコンソーシアム体制に認定特定非営利活動法人グローバル人材開発センターに参画していただくこととしたい。

8 課題項目別実施期間

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域課題解決型授業										
・各授業における取組	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
・2年学校設定科目「起業マネジメント」 「グローバルビジネス」の実施と評価法の 確立	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
・連携先外部評価の実施		○					○			○
コンソーシアム会議の深化										
・会議の実施		○								○
・上半期事業報告					○					
・構成員の授業見学、協力	○	○					○	○		
・課題研究報告会への参加								○		
地域公共政策士の養成										
・地域公共人材開発機構との協議（資格 認定に向けて）	○						○			
・高大連携授業を活用した地域人材資格 の意義	○									
学校ボランティアの活用	○	○		○	○	○	○			
カリキュラム開発専門家会議	○	○			○	○		○	○	

地域協働実施学習支援員のコーディネート機能の充実										
・定例連絡会議の実施（週1回）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
・連携先とのコーディネート	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
・課題研究等の授業協力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

9 知的財産権の帰属（プロフェッショナル型のみ）

※いずれかに○を付すこと。なお，1. を選択する場合，契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意すること。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

10 再委託の有無

再委託業務の有無 有 ・ 無

※有の場合，別添3に詳細を記載すること。

11 所要経費

別添のとおり

※課税・免税事業者： 課税事業者・免税事業者 (□で囲むこと)

研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 京都市下京区中堂寺命婦町1-10
管理機関名 京都府教育委員会
代表者名 教育長 橋本 幸三 印

1 指定校名・類型

学校名 京都府立京都すばる高等学校
学校長名 三橋 利彦
類型 プロフェッショナル型

2 研究開発名

『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究
～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

3 研究開発の概要

専門高校の特性を活かし実践を伴った探究的な学びを実現することにより、地域人材に必要な力を育成することを目的とする。また、2年目の成果および課題を踏まえ、引き続き次の研究開発を行い、事業最終年度としての取組を行う。

(1) コンソーシアムにおける協働体制の充実

初年度の課題（各構成員が行っている取組を共有することが主体となる）を踏まえ、2年目は、それぞれの取組について相互理解を進め、学校とコンソーシアムが育てたい生徒像を共有し発展させていくことに努めた。「社会に開かれた教育課程の実現」には教員の内部の視点以外に外部の専門家からの視点が必要不可欠である。3年目は、このコンソーシアム体制の重要性を研究成果として発信していきたい。

(2) 地域課題解決型授業の実施および成果の検証

初年度の取組（地域には様々な課題があることを理解させる）を踏まえ、2年目は、その発見した課題を「じぶんごと」としてとらえ、考えられる人材を育成するための研究開発を進めていくことに努めた。また、地域の様々な機関等との連携をさらに進めながら、「じぶんごと」から「みんなごと」へ進めるために、当事者意識を養い、探究力を身につけさせていくことに重点を置いた。3年目は、「みんなごと化プロジェクト」により、常に当事者意識を持ち、「住んでよし、訪れてよし」の実現に向けてまわりをまきこみながら主体的に行動できる人材を育成していきたい。

(3) 地域公共政策士の養成

地域公共政策士とは、「地域公共人材」の能力を保証する地域資格のことであり、社会的課題を産官学民の連携のもとに解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導及びコーディネートができる人材育成を目指している。2年目は、高校側が実施する「地域課題解決型授業」がこの資格認定のどのレベルで値するのかを地域公共人材開発機構と検討し、認定（ポイントの先取り）が可能であるとの回答をいただけた。次年度は、機構の総会で承認を得ることと、具体的な認定までの仕組みづくりをしていきたい。

(4) 学校ボランティアクラブの活用

初年度の課題（部活動加入率が高いことから、生徒がボランティアと部活動の両方ができる仕組み作りを進める）を踏まえ、クラブ単位で参加することや個人で参加する機会を準備したが、2年目はコロナ禍の中で外部のボランティアに参加すること自

体が出来なかった。3年目は、現状の仕組みから発展させ、「専門学科クラブ」として多くの生徒が課外で社会貢献活動への参加がしやすい仕組みとしての部活動化を目指したい。

- 4 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）（該当なし）
 - ア 学校設定教科・科目を開設している
 - イ 教育課程の特例を活用している
- 5 事業の実施期間
契約日～令和4年3月31日
- 6 令和3年度の研究開発実施計画

学年	学科	(単位数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	起業創造科	ビジネス基礎(2)	オリエンテーション 年間計画	提案力の育成			伏見商いリサーチ	地域創生事例学習		創造実習① 税理士会・税務署との連携「税をとおした地域作り」 【外部講師】		価値創造の必要性 起業家講演会 【外部講師】		
1	企画科	マーケティング(2)		提案力の育成	企画実習①まちの魅力と課題を知る					企画実習②大学・NPO・行政との連携 地域と世界をつなぐ「じぶんごと化プロジェクト」 【外部講師】				
2	起業創造科	起業マネジメント(3)		起業家精神基礎 【外部講師】	創造実習② ・起業マネジメント領域 ・地域ビジネス領域 ・キャリアデザイン領域 ・会計プロフェッショナル領域 ・中小企業商いリサーチ 【WEB会議・外部講師・フィールドワーク】									
2	企画科	商品開発(2)		企業との連携 (商品開発・京都すばるデパートでの販売) 【外部講師】						大学との連携 (ビジネスプランの考案)				
2	企画科	グローバルビジネス(2)		企画実習③企業・NPO・行政との連携 地域と世界をつなぐ「みんなごと化プロジェクト」 【WEB会議・外部講師・フィールドワーク】 ※2・3年次継続実施										
3	起業創造科	課題研究(3)		課題設定	地域の企業・NPO・税理士会・小中高大などの連携 (少人数制での課題解決・探究的な学び) ソーシャル起業ゼミ、地域ビジネスゼミ ほか 【WEB会議・外部講師・フィールドワーク】								ポートフォリオ作成 成果発表会	
3	企画科	課題研究(4)	地域の企業・NPO・行政・小中高大などの連携 (少人数制での課題解決・探究的な学び) 観光ビジネスゼミ、高大連携ゼミ ほか 【WEB会議・外部講師・フィールドワーク】								台湾研修			
3	起業創造科	起業マネジメント(3)	年間計画	創造実習③ 起業家精神応用 地域イノベーションと成長 【WEB会議・外部講師・フィールドワーク】					ポートフォリオ・レポート作成 プレゼンテーション					
3	企画科	グローバルビジネス(2)		企画実習③企業・NPO・行政との連携 地域と世界をつなぐ「みんなごと化プロジェクト」 【WEB会議・外部講師・フィールドワーク】					ポートフォリオ・レポート作成 プレゼンテーション					
教員				先進校視察、セミナー参加										

※●印：別紙「所要経費」を活用した取り組み

7 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
コンソーシアム会議	京都すばる高等学校	京都府教育委員会
運営指導委員会	京都すばる高等学校	京都府教育委員会
研究推進委員会	京都すばる高等学校	京都すばる高等学校

運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
山本 ひとみ	京都市伏見区 区長	専門的知見からの指導・助言
榊田 隆之	京都信用金庫 理事長	〃
池田 武	京都府総合教育センター 教師力向上総括アドバイザー	〃
深尾 昌峰	龍谷大学 政策学部 教授	オブザーバー

※備考欄には、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、関係行政機関の職員等、運営に関して指導・助言にあたる専門の区分を記入すること

高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機 関 名	機関の代表者名
京都府教育委員会	教育長 橋本 幸三
龍谷大学	学長 入澤 崇
伏見いきいき市民活動センター	センター長 三木 俊和
京都市伏見区役所	区長 山本 ひとみ
京都文教大学	学長 平岡 聡
京都あおい税理士法人	代表 新見 和也
公益財団法人 京都地域創造基金	理事長 新川 達郎
公益財団法人 京都市ユースサービス協会	理事長 安保 千秋
認定特定非営利活動法人 グローカル人材開発センター	代表理事 行元 沙弥
京都府立京都すばる高等学校	校長 三橋 利彦

カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	深尾 昌峰	龍谷大学 政策学部 教授	外部講師
カリキュラム開発等専門家	行元 沙弥	認定特定非営利活動法人 グローバル人材開発センター 代表理事	外部講師
地域協働学習実施支援員	三木 俊和	伏見いきいき市民活動センター センター長	外部講師

8 課題項目別実施期間

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域課題解決型授業												
・各授業における取組	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
・3年生新学科課題研究開始	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
・2・3年学校設定科目「起業マネジメント」「グローバルビジネス」の実施と評価法の確立	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
・連携先外部評価の実施	○			○					○			○
コンソーシアム協働体制												
・コンソーシアム会議				○								○
・カリキュラム開発等専門家会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
・構成員の授業見学、協力			○	○					○	○		
・課題研究報告会への参加										○		
地域公共政策士の養成												
・地域公共人材開発機構との協議（資格ポイント認定）	○	○	○				○	○	○	○		

・高大連携（7年の学び）を活用した地域人材育成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・地域公共政策士認定大学（9大学）との意見交換	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
専門学科クラブの活用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地域協働実施学習支援員のコーディネート機能の充実												
・定例連絡会議の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・連携先とのコーディネート	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・課題研究等の授業協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

9 知的財産権の帰属（プロフェッショナル型のみ）

※いずれかに○を付すこと。なお，1. を選択する場合，契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意すること。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

10 再委託の有無

再委託業務の有無 有 ・ 無

※有の場合，別添3に詳細を記載すること。

11 所要経費

別添のとおり

※課税・免税事業者： 課税事業者・免税事業者 (□で囲むこと)

『住んでよし、訪れてよし』の 持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究 ～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

京都の課題

- ①少子高齢化
- ②訪日外国人の急増によるオーバーツーリズム
- ③地域に根差した観光人材の不足 など

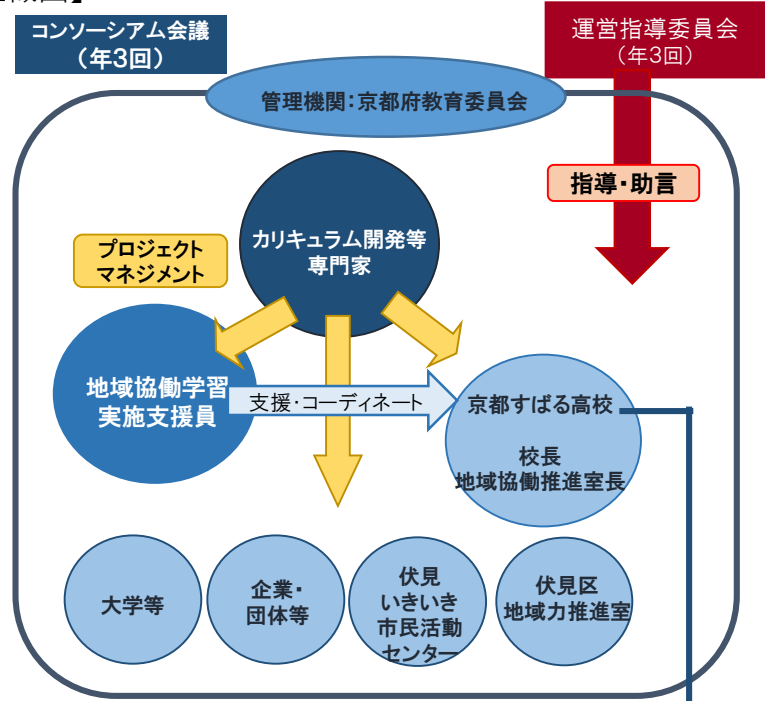
みんなごと化プロジェクト (育てたい人物像)

ビジネスの視点から、京都の課題を発見できる人

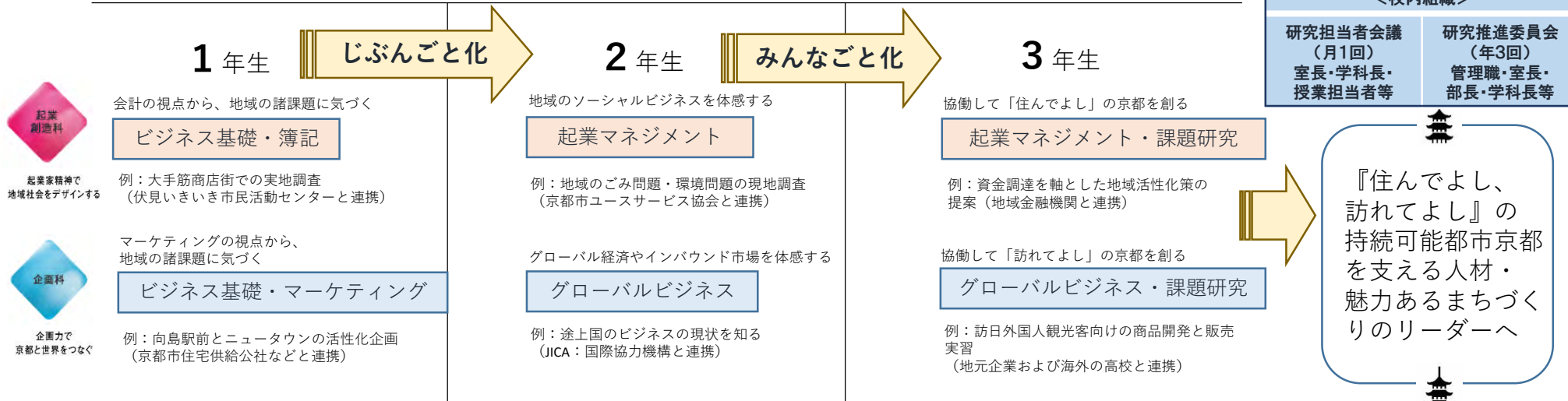
発見した課題を「じぶんごと」としてとらえ、考えられる人

多様な価値観や背景を持つ人・立場の異なる人を巻きこんで
「みんなごと」としてとらえ、新しい成果を出せる人

【育成する資質・能力】当事者意識・探究力・論理的思考力・協働力



【3年間の流れ】



コンソーシアム内で企画・協働実施・成果検証

『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究 ～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

【研究開発の背景】

○ 京都の課題

- ① 少子高齢化
- ② 訪日外国人の急増によるオーバーツーリズム
- ③ 地域に根ざした観光人材の不足



○ このプロジェクトで育てたい人物像

ビジネスの視点から、京都の課題を発見できる人

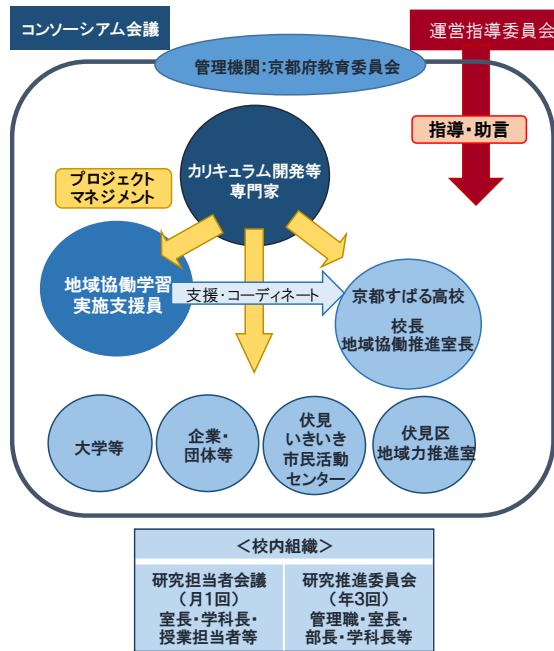
⇒ 発見した課題を「じぶんごと」としてとらえ、考えられる人

⇒ 多様な価値観や背景を持つ人・立場の異なる人を巻きこんで「みんなごと」としてとらえ、新しい成果を出せる人

○ 育成したい資質・能力

当事者意識・探究力・論理的思考力・協働力

【実施体制】



【令和元年度の目標】

コンソーシアム会議や地域協働学習実施支援員の支援を受けて実施するプロジェクト型授業の実践を通して以下の目標を設定する

- 社会問題に対する当事者意識を持たせる
- 地域課題を理解して、背景や原因を追求する探究心や論理的思考力を高める
- 地域の多様な他者と課題を共有し、協働する力を高める

【主な取組事例】

起業創造科（新学科）（会計の視点から、地域の諸課題に気づく）



伏見大手筋商店街“商い”リサーチ



鳥根県雲南市への視察、交流

企画科（新学科）（マーケティングの視点から、地域の諸課題に気づく）



地域イベント運営



アフリカと向島地域をつなぐ「じぶんごと化プロジェクト」

会計科・企画科・ビジネス探求科



伏見区役所深草支所との連携
ゴミ問題（会計科）
観光分散化（企画科）
伏見稲荷大社周辺の住みよいまちづくり会議



龍谷大学との連携
伏見ふれあいプラザ合同運営
（ビジネス探求科）

【成果と課題】

1 成果

- ① 地域協働学習実施支援員との定例連絡会議の実施（年間36回）
- ② 地域協働学習実施支援員の地域・企業とのコーディネート役割および連携授業の補助
- ③ 地域課題解決型授業の実施（全学年）
- ④ じぶんごと化（地域の諸課題への気づき）

○ 当事者意識（生徒アンケート）

「様々な社会問題や世の中で起きていることに対して、当事者意識を持つことができたようになったか」
⇒ 97%の生徒が肯定的な回答

○ 探究力

地域課題に対して、その課題を理解し、背景や原因を深く掘り下げながら「探究力」を身につけさせる授業の仕組みを構築できた。

○ 論理的思考力

企画提案する過程で、「課題理解→仮説設定・実行→検証→修正・再提案」の一連の流れで、課題解決に向けての研究を実施できた。

○ 協働力

地域の多様な方々と多様な問題解決に向けて、生徒が何度も議論し、問題意識を共有する取組ができた。

2 課題

- ・ 事業評価と生徒評価の評価法の確立（統一した外部評価基準の作成を含む）
- ・ 情報発信の一層の活性化
- ・ 学校設定科目「起業マネジメント」および「グローバルビジネス」の充実、高校生版地域公共政策士の資格創設の推進
- ・ コンソーシアム会議の日程調整及び構成員の再構築
- ・ 学校行事、時間割等との調整による事業の一層の円滑化
- ・ 事業内容の精選と「見える化」した形での整理、共有

「みんなごと化」へ向けて
学校設定科目の活用

『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究 ～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

【研究開発の背景】

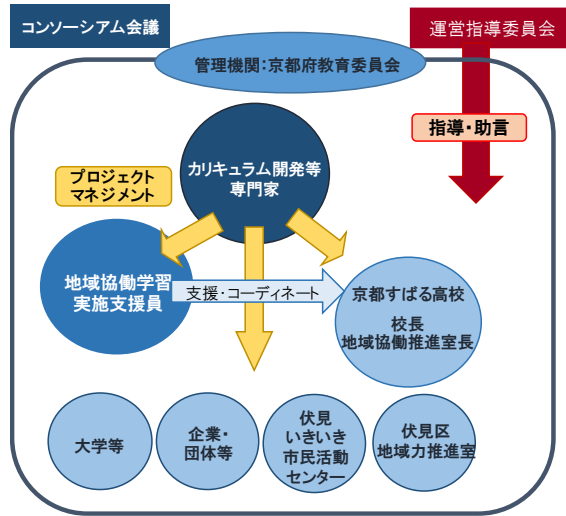
○ 京都の課題

- ① 少子高齢化
- ② コロナ禍における訪日外国人の消滅（課題の変化）
⇒ 観光産業への過去にない大きな打撃（変化への対応）
- ③ 地域に根ざした観光人材の不足



- このプロジェクトで育てたい人物像
ビジネスの視点から、京都の課題を発見できる人
⇒ 発見した課題を「じぶんごと」としてとらえ、考えられる人
⇒ 多様な価値観や背景を持つ人・立場の異なる人を巻きこんで「みんなごと」としてとらえ、新しい成果を出せる人
- 育成したい資質・能力
当事者意識・探究力・論理的思考力・協働力

【実施体制】



＜校内組織＞	
研究担当者会議 (月1回) 室長・学科長・ 授業担当者等	研究推進委員会 (年3回) 管理職・室長・ 部長・学科長等

【令和2年度の目標】

- 「じぶんごと化」から「みんなごと化」へ向けて学校設定科目（起業マネジメント・グローバルビジネス）を活用する
- 社会課題への気づきによるじぶんごと化
- 課題解決型授業による探究力、論理的思考力の育成
- 多様な他者と課題を共有し、議論することによる協働する力の育成
- 学校とコンソーシアムとの育成したい生徒像の共有

【主な取組事例】

起業創造科（起業マネジメント）

- 地域学の学び
- 社会課題解決「TOKYO STARTUP GATEWAY 2020」
- 企業内起業プロジェクト
- 「カッコいい大人」講演会



向島賑わいづくりプロジェクト



京都の中小企業商いリサーチII

企画科（グローバルビジネス）

- 観光学、観光英語の学び
- 社会課題解決「40億人のためのビジネスアイデアコンテスト」
- アフリカと向島地域をつなぐ「じぶんごと化プロジェクトII」
- 青年海外協力隊員による講演会



グラフィックレコーディング実習



じぶんごと化プロジェクトII

【成果と課題】

1 成果

- ① 地域協働学習実施支援員の活躍
（年間70回以上来校し、学校と地域をつなぐ）
- ② 新学科学校設定科目の活用
（起業マネジメント・グローバルビジネス）
- ③ じぶんごと化
（「地域の諸課題に当事者意識を持った」生徒が81.5%）



本事業による学びの魅力について、生徒が自由に議論した内容を記録・表現した図

2 課題

- ① みんなごと化
（「周囲を巻き込み、チームで協働できる」生徒はまだ66.7%）
- ② 新学科課題研究の活用
（新たに18グループで探究活動を開始）
- ③ 事業終了後を見据えた動き
（地域公共政策士高校生版の資格創設など）

「みんなごと化」へ向けて
新・課題研究の活用

『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究 ～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～

○ プロジェクトで育てたい人物像

ビジネスの視点から、京都の課題を発見できる人
⇒発見した課題を「**じぶんごと**」としてとらえ、考えられる人
⇒多様な価値観や背景を持つ人・立場の異なる人を巻きこんで「**みんなごと**」としてとらえ、新しい成果を出せる人

○ 育成したい資質・能力

当事者意識・探究力・論理的思考力・協働力

【生徒の変容】（入学時と3年終了時のキャリアノートより）

○ 具体的に身につけさせたい力（学習活動）

- ①主体性 (54.6%⇒90.5%)
- ②実行力 (56.5%⇒87.6%)
- ③課題発見・解決力 (56.0%⇒83.2%)
- ④創造力 (82.6%⇒94.2%)
- ⑤発信力 (39.6%⇒78.8%)
- ⑥傾聴力 (92.8%⇒96.4%)

○ プロジェクト達成度

- ①じぶんごと化
81.0% (2年終了時)
⇒93.4% (3年終了時)
- ②みんなごと化
84.7% (3年終了時)

【研究開発目標】 令和元年度（事業開始時）

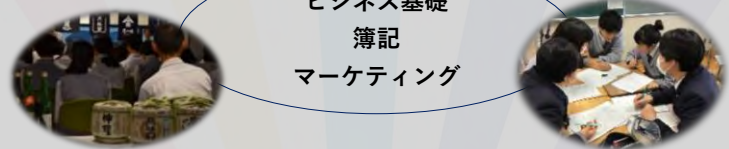
- ①コンソーシアム体制の確立
- ②地域課題解決型授業の実施
- ③学校ボランティアクラブの設置
- ④地域公共政策士（高校生版）の養成

【研究開発成果】 令和3年度（事業終了時）

- ①コンソーシアム体制の充実
⇒外部応援団と校内担当の組織化
 - 運営指導委員会設置による事業評価
 - コンソーシアム会議設置による指導、助言
 - カリキュラム開発等専門家による支援体制
 - 地域協働学習実施支援員による連携体制
(年間70回以上来校し、学校と地域をつなぐ)
 - 地域協働推進室設置による校内体制
(校内のつなぎ役として学校と地域をつなぐ)
- ②地域課題解決型授業の充実
⇒3年間の系統的プロジェクト型授業の実施
 - 学校設定科目（2年次・3年次）の活用
 - 課題研究（18ゼミ）の実践
 - 生徒の変容（みんなごと化達成度84.7%）
 - 教員の意識の変化（コンソーシアムの活用）
- ③学校ボランティアクラブの設置
⇒部活動化の実現
 - 生徒実行部の設置（令和3年度より）
- ④地域公共政策士（高校生版）の養成
⇒地域公共人材開発機構・大学との協議開始
 - 上記機構内に同資格認定のワーキング設置

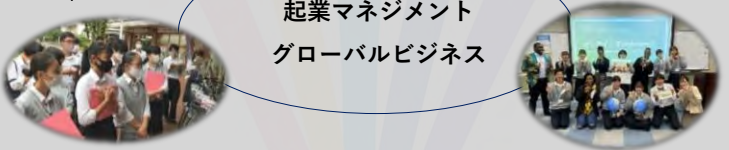
【3年間の系統的な学習の流れ】

1 年生



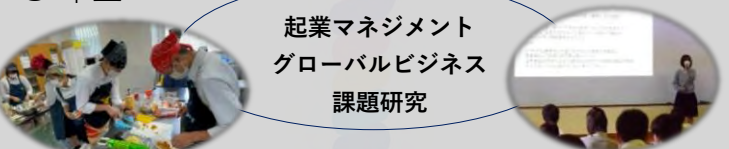
ビジネスの視点から地域の諸課題に気づき、
当事者意識をもつ【じぶんごと化】

2 年生



地域と連携したプロジェクトを通じて、
協働力を磨く【みんなごと化】

3 年生



探究力・論理的思考力を磨きながら、
「住んでよし」「訪れてよし」に加え、
「働いてよし」の京都を創る

【課題研究による地域とつながる学び】

- ①ゼミ形式の18の学び（各学科9ゼミ×2）
- ②全ゼミによる地域とつながる授業の実施
⇒学科の学びと社会をつなぐ
- ③授業毎にゼミレポートの記入・提出
⇒学びの軌跡が見える化
- ④中間発表会・最終発表会の実施
⇒学びの成果を発信
- ⑤ゼミ活動を通して“みんなごと化”へ
⇒ゼミ内で協働した活動、価値観の共有

【みんなごと化プロジェクト報告会】

- ①3年間の事業経過及び成果について実施
- ②報告会内容
⇒起業創造科会場、企画科会場と2会場設置
 - 地域とつながる授業実践報告
 - 地域コーディネーターによる講話
 - 私たちが創る京都の未来ワーク
 - 学科長と連携企業によるパネルディスカッション



(3) 地域協働グラフィックレコーディング

この図は本事業内容について、イメージ化したものである。ファシリテーショングラフィッカー 三宅正太様に各種会議に出席いただき、議論の内容をグラフィックレコーディングに落とし込んでいただいた。

- ・ 京都すばる高校みんなごと化プロジェクト
- ・ 令和元年度「住んでよし」（会計科）・「訪れてよし」（企画科）取り組み
- ・ 令和2年度地域協働ふりかえり～4つの問いで考えました～（生徒版）
- ・ 令和2年度地域協働事業で身につけたい4つの資質
- ・ 令和2年度京都すばる高校地域協働事業の魅力（生徒版）
- ・ 令和3年度課題研究最終発表会（起業創造科・企画科）

京都すばる高校みんなごと化プロジェクト

二小まの商業科での学び



地域協働からビジネス視点の学び



地域人材として『じばんごと』から『みんなごと』へ!

4つの力を身に付けよう

当事者意識



協働力



探究力

論理的思考



身の周りの課題をじばんごと化



クラスや学校全体でじばんごと化からみんなごと化



地域を変えることができるプロジェクト人材へ

二小まで目指します

京都すばる高校みんなごと化プロジェクト

2019年度(1年目)のまとめ

① 会計「住んでよし」プロジェクト

捨てなくなるゴミ箱
持ち帰りにくる巾着袋で
住みよいまちづくり

！ 実際にプロジェクトを通して
私も外国人はリアルな会計の
ゴミ捨てがい！ 感覚ついた！

観光地のゴミ問題
「ゴミ捨て」が「捨てる」へ

持続可能なために
端切水の再利用

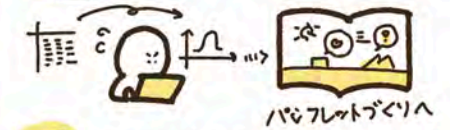
ここからの課題
仕事化していく難しさ
仕事 生産



② 企画「訪れてよし」プロジェクト

場所と時間の分散で
伏見稻荷大社の
混雑緩和

決められた情報を
実際に統計処理



観光地の混雑

まちづくり会議で提案

NTTドコモと連携
携帯から混雑の測定



プロジェクトスタート→コンソーシアム立ち上げ

“学校だけにしどまらず”
学びと体制を作ってきた1年

地域の課題と関わった！
リアルを感じた！
多様な人と関わった！

ここからの展望

生徒も、地域も
本物化していく

~ 4つの問いで考えました ~

- Q1. 入学してからもっとも大きな変化
- Q2. 与えてくれたもの

- Q3. 地域・世界との関わりで印象に残ること
- Q4. 伝えたい魅力

自分が変わるチャンスある

自分の役割を知る

グループで協力

将来に対する考え方



テレビの見方変わった!

考える力



その国の内面を知る

運命的な出会い

アイデアを形に!

地域のいいところ再発見

商業の知識

伝える力

学んだことが使われている!

普段話さない大人と話す

考え・言葉をくれた!



明るい性格



メンタル強く

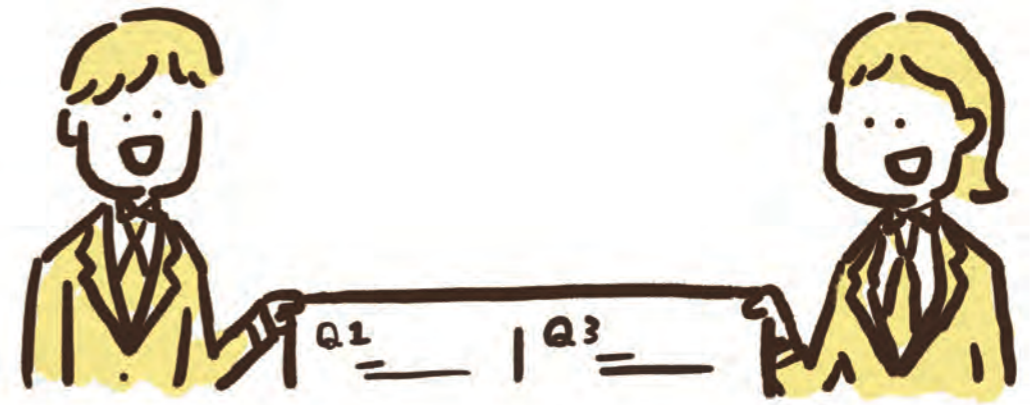
地域の人にあたにかき

2020年度

地域協働のふりかえり

2021年1月6日 (水) 9:00~12:00

生徒版



じぶんごと化

社会課題 地域課題 に対する
困りごとの感度

関心をもつ

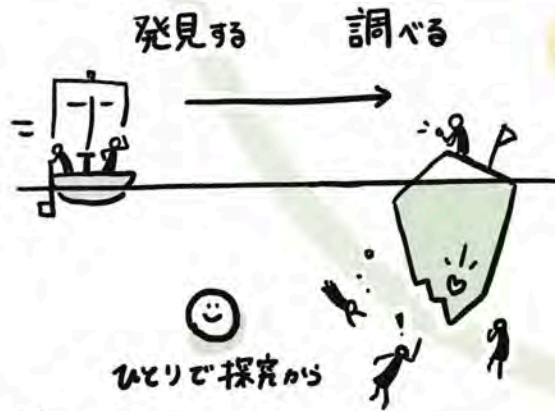
当事者性



ほっとけない
やってみたい

共感力

探究力



ひとりでは探究から

みんなで探究へ

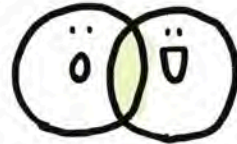
まずは楽しむ!

ほんもの

その出会い

Local

全力が許される雰囲気



質問力

Global

学校・地域の
隔たりを突破

つながりの多さ

多様な価値観

協働力

チーム力

お互いの強みを活かす
貢献しよう

論理的思考力

WHY + HOW

裏づけ・根拠

温度差

能力差

経験差

巻き込むための筋みちを立てる

今の社会と密接に
アップデートする学び

2020年度

地域協働ふりかえり

2021年2月28日 (日)

みんなごと化



人とつながる楽しさ

友人の存在



運命的な出会い

いろいろな人



商業の知識がつけられる



将来の選択肢が増える

伝える・伝わる・動かす力

京都と世界をつなぐ



地域の課題にきわいに

アイデアを形にできる



複眼的思考

考え方

時代にあった職業をつくれる!



当たり前のことを
当たり前



全力がゆるめる雰囲気

京都すばる高校の魅力

Eゼミ Social Entrepreneur

向島の魅力を伝えたい

どうすれば日本一の〇〇な〇〇を実現できるか

野菜嫌いな人 食べたいかな

遊ぶ心のある〇〇焼き 健康志向の野菜入-ジ 健康なパイ

京町の野菜 粉末状 大豆肉 地域のものをつかう

向島の農家

Lゼミ Local Career

研究の道に自分の夢を再確認

ニューノーマルな働き方は

外部講師にヒアリング 企業訪問 時間外労働の職場のストレス

真面目、誠実、正実に些細な会話でもプライベートの充実が仕事

心に残る働き方 心に余裕を持つ 働くおに

大学生、他の高校生へのプレゼンテーション

イラスト 在宅労働

Vゼミ Venture Business

自分の課題を知った!

要約 → 柳井氏の「若者のメッセージ」

資格のリサーチ パンチカードのキーワード

調べ学習 → パワポの作成

年間テーマ 自分を知らず、認知

目標設定シートの作成

外部講師事業 → コロナ禍で起業ローカルベンチャー

当り前の反対中、ありがたい頼り、頼られる

映画研究 → リーダーの研究

Aゼミ Accounting Utilization

知識の活用 財務諸表の分析

たこ焼屋 経営シミュレーション

黒字倒産の資金繰り

持続可能な売店の事業案の提案

税理士の 会計学の基礎 手書きとソフト会計の比較

生徒の個人経営の 自動販売機 食品の日用品を外部に委託?

Fゼミ Future Creation

2つのことに挑戦しよう!

杉の手入れ可能な地域を守る!

1. 小学生に税を伝える

児童館にて学ぶ 元気になる

身近な消費税 子どもの学び

2. 北山杉を使った木製製品を作る

本日はスローに作り出す

Jゼミ Co-work with Junior high & Elementary school

中学生にビジネスマナーを伝える

3つの学びがありました!

職場体験 入試の面接対策に使える!

対応力 準備 中学生へのアドバイス 探求心

内容 + スピード + ある程度の工夫

Uゼミ Co-work with University & High school

魅力とは何か?

3つの仮説を立て、分析

地域 向島の魅力? パワポの作成

人 京町の両方の魅力? 夢中になれる 伝わるが、味のあるもの

企業 大学の研究発表

Y-シヤル企業認証企業へのトピック

伏見滝公園の魅力を調査

人に伝わる視覚的・感情的・場面的魅力は異なる 自分や相手に合わせて伝える

Iゼミ Innovation

多重債務を避けるために?

不幸にならないために

金融教育セミナーの受講

プレジ事業「持続可能な社会へ」

架空ケースの作成 自己肯定感高まるおに

ユニバールデザインはバロ

教育を受ける権利 人身売買を禁止する

日弁連の7人自己破産 司法書士の破産法

借金と抱えている 債務整理とは...

Cゼミ Contest Challenge

4つのコンテストにチャレンジしました!

大会名称とスロガン

ビジネスプランコンテスト

普段の課題を見つめる

実際に足を運ばました!

2. 日帰りグループ旅行

4. 食品ロス対策

コンテストにチャレンジしながら社会問題を考える

Gゼミ Global Business

コロナで販売できなくなった共同企画...
台北市立士林高商と → 台湾の商品を 応援購入
~ 高校生ならではのストーリー ~

情報収集 企業の協力 資金調達
オンラインで打ち合わせ

企画力が世界に京都をつなぐ...

クラウドファンディング

Tゼミ Tourism Business

日本の伝統文化を伝える
観光ビジネス

感じることの大切さ

実際に華道・水引・茶道体験
企業にプレゼン、講師
魅力を伝えたい

本物に心酔する

観光プランの作成・提案

伝える私たちが
知っているから!

Pゼミ Product Development

コロナ禍だからこそ
京都ならではの楽しんでもらえるか?

~ 非日常 × 新しい京都の魅力 ~

100s 100まで企画

企業の打ち合わせ、調整

高校生ならではの新規性

全員で意見を
出すから...

おぼろ餅の
オンライン販売

Sゼミ Sports & Health Business

どうすればスポーツを
仲間で 全力で 楽しめるか?

情報収集
アンケート調査
大学のサークルに参加

教授にインタビュー
YouTubeの活用

スポーツ
安全で手軽な
スポーツ体験
ハードボイルド
キャップ

SDGsと
練習メニュー
質の高い練習メニュー

習慣化の
イベント
わかりやすい
ルールでフット

Mゼミ Movie & Promotion

心に残る動画
を撮るために?

1年間7本撮りました!

ワオリティ制作時間の
バランス

地域PV
撮影大変

構成次第で
スピーディーな制作
= ワオリティ UP!

光のあて方で
変わる

教育振興プラン
講師のアドバイス

中学校で撮影

検証からスタート

パンフレットでは伝わり
にくい部活動紹介

短く...!
飽きない工夫

素人でも
10分かつて1週間かかる!

Dゼミ Graphic Design

多くの人に興味を持ってもらえる
デザインに?

遊食亭のコラボ
社員食堂 + 学生食堂

電柱広告
+ クイズ広告

一目みれば、
情報を知ることができる
デザイン?

買った人が楽しめるように!

スマホ
カバー

オンラインでの販売

バッジ制作

もっと「好き」を伝えたい

Jゼミ Co-work with Junior high & Elementary school

どうすれば
初対面でも好印象?

アタレブ・リスニング
質問 目標 好印象 目標 分かる!

話し方・上には難しい...
聴きかた工夫
するだけでも!

ビジネスマナー講座
6中学校で実施
中学生の中で
一番おもしろい!

企業と連携...
おぼろ餅 脳トレ問題集
先算が作ったものを
イチから作り直し、フレカウに!

たこ焼きの
コミュニケーション
豊かにできるかな...

Uゼミ Co-work with University & High school

大阪大学の松村教授が提唱する...
「仕掛学」を3つの班で活動

手洗い場の
ディスカッション
色を変え検証

自発的に
無意識に...

ネットボールキャップの分別
見直し

二枚目の
身の組み

論文に
その発表

スキマ時間で!
掃除時間の
短縮!

カーリングの
的モチベーション

Cゼミ Contest / Challenge

どうすれば
魅力ある応募作品
つくれるか?

禁煙CM コンテスト
作る前に調べる

素材を知っているから...
チーズ
底のあめ
チー1グランプリ

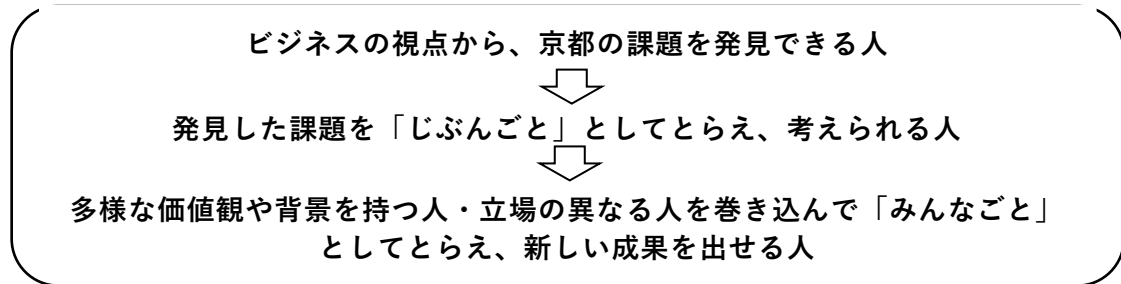
他人視点で
自分の興味ある作品をつくる

全日本動物写真コンテスト
FM徳島cmコピー大賞

4 研究開発報告

(1) 研究開発名

『住んでよし、訪れてよし』の持続可能都市京都を支える人材育成に関する研究
～京都すばる高校：みんなごと化プロジェクト～



(2) 研究開発概要

専門高校の特性を活かし実践を伴った探究的な学びを実現することにより、地域人材に必要な力を育成することを目的とする。また、2年目の成果および課題を踏まえ、引き続き次の研究開発を行い、事業最終年度としての取組を行う。

ア コンソーシアムにおける協働体制の充実

計画	成果
初年度の課題（各構成員が行っている取組を共有することが主体となる）を踏まえ、2年目は、それぞれの取り組みについて相互理解を進め、学校とコンソーシアムが育てたい生徒像を共有し発展させていくことに努めた。「社会に開かれた教育課程の実現」には教員の内部の視点以外に外部の専門家からの視点が必要不可欠である。3年目は、このコンソーシアム体制の重要性を研究成果として発信していきたい。	3年間の事業により、運営指導委員会の設置、コンソーシアム会議の設置、カリキュラム開発等専門家の配置、地域協働学習実施支援員の配置、地域協働推進室の設置と充実したコンソーシアム体制により、外部の応援団と校内担当の組織化ができた。 コンソーシアム体制の詳細については(4)オ、カ、キ、ク参照。

イ 地域課題解決型授業の実施および成果の検証

計画	成果
初年度の取組（地域には様々な課題があることを理解させる）を踏まえ、2年目は、その発見した課題を「じぶんごと」としてとらえ、考えられる人材を育成するための研究開発を進めていくことに努めた。また、地域の様々な機関等との連携をさらに進めながら、「じぶんごと」から「みんなごと」へ進めるために、当事者意識を養い、探究力を身につけさせていくことに重点を置いた。3年目は、「みんなごと化プロジェクト」により、常に当事者意識を持ち、「住んでよし、訪れてよし」の実現に向けてまわりをまきこみながら主体的に行動できる人材を育成していきたい。	3年間の系統的授業が確立し、学校設定科目（2、3年次）と課題研究（18ゼミ）を有効に活用したカリキュラムが完成した。3年間の体系的な学びについては(4)ウ参照。3年間の具体的な地域課題解決型授業については(4)エ参照。

ウ 地域公共政策士の養成

計画	成果
<p>地域公共政策士とは、「地域公共人材」の能力を保証する地域資格のことであり、社会的課題を産官学民の連携のもとに解決するため、協働型社会にふさわしいアプローチで地域の公共的活動や政策形成の主導及びコーディネートができる人材育成を目指している。2年目は、高校側が実施する「地域課題解決型授業」がこの資格認定のどのレベルで値するのかを地域公共人材開発機構と検討し、認定（ポイントの先取り）が可能であるとの回答をいただけた。次年度は、機構の総会で承認を得ることと、具体的な認定までの仕組みづくりをしていきたい。</p>	<p>地域公共政策士（高校生版）の認定に向けて、一般財団法人地域公共人材開発機構と龍谷大学と本校の三者で仕組みを作る体制ができた。詳細は（４）ヶ参照。</p>

エ 学校ボランティアクラブの活用

計画	成果
<p>初年度の課題（部活動加入率が高いことから、生徒がボランティアと部活動の両方ができる仕組み作りを進める）を踏まえ、クラブ単位で参加することや個人で参加する機会を準備したが、2年目はコロナ禍で外部のボランティアに参加すること自体が出来なかった。3年目は、現状の仕組みから発展させ、「専門学科クラブ」として多くの生徒が課外で社会貢献活動への参加がしやすい仕組みとしての部活動化を目指したい。</p>	<p>今年度より正式に部活動（生徒実行部）として登録され、在校生も含め登録、活動を始めた。校外でのボランティアの実施だけでなく、正課の授業以外に学科の特色ある活動やプロジェクト活動をすることが可能となった。部活動が盛んな本校として、他の部活動との兼部も認める仕組みとした。令和3年度現在45名（兼部生徒24名含む）が登録している。顧問は学科長である。</p>

(3) 研究開発による生徒の変容（3年間の取り組みによる生徒の変化）

- 【調査日時】 第1回（入学時）：平成31年4月
第2回（1年終了時）：令和2年6月※
※当初、第2回は令和元年3月実施予定だったが休校措置により延期）
第3回（2年終了時）：令和3年2月
第4回（3年終了時）：令和4年1月
- 【対象生徒】 起業創造科3年生・企画科3年生
（第1回207名、第2回200名、第3回195名、第4回180名）
- 【内 容】 本プロジェクトで育成する力【当事者意識・論理的思考力・探究力・協働力】を言い換えたものとして、主体性、実行力、発信力、傾聴力、地域への関心・愛着心、「じぶんごと化」「みんなごと化」プロジェクトについて調査した。
- 【結 果】 回答は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」の4つから選択する形式。前者2項目を「はい」、後者2項目を「いいえ」として集計した。
- 【入 学 時】 第1回調査結果から、ほとんどの生徒が人の話を聞く力「傾聴力」を身につけて入学しているが、その内容から課題を発見し、解決のための目標設定や主体的に取り組む力が不足していることが分かった。しかし、部活動等の自主活動においては自主性や実行力が高いことがうかがえ、中学校時代の自主活動に積極的にかかわり、成長を実感していることもうかがえる。
これらのことから、生徒自身が中心となっていく体験的な学習活動を通して、主体的に取り組む解決策を探ることの楽しさを知り、課題解決能力の育成につなげるなど、身につけさせるべき内容や目標が明確になった。
- 【1年終了時】 第1回、第2回調査結果ともに、「はい」が最も高い割合を示したのは自主活動における「傾聴力」であった。最も低いのは学習面の「発信力」である。また、1年間で高い伸び率を示したのは学習面の「主体性」（+18.4 ㊦）、「実行力」（+18.0 ㊦）、「発信力」（+12.9 ㊦）、「地域への関心（積極性）」（+12.7 ㊦）であった。いっぽう、自主活動における「創造力」は減少している。（-8.3 ㊦）
アンケートの結果から、1年間の授業によって、主体性や実行力、地域への関心を高めていったことが分かる。今後は、もともと低い伸び率が高い「発信力」をさらに伸ばしながら、授業で培った創造力を自主活動や日常生活にも応用できるよう工夫することが求められる。
1年終了時アンケートで新たに追加した「8 じぶんごと化」の項目については、本事業のキーワード「みんなごと化」の基礎となるものである。2年終了時に再度同じ質問をして変化を確認するとともに、「みんな

なごと化」に関する質問も追加して変化を確認する。

【2年終了時】 3回のアンケート結果すべて「はい」が最も高い割合を示したのは「傾聴力」である。（学習面 第1回 92.8%、第2回 96.0%、第3回 94.6%・自主活動 第1回 97.1%、第2回 97.0%、第3回 94.9%）、最も低いのは学習面の「発信力」であり3回とも同じである。（第1回 39.6%、第2回 52.5%、第3回 53.3%）また、主体性（学習面）、課題発見・解決力（学習面）、発信力（学習面）に関して2年間で着実に伸びている。

いっぽう、創造力（学習面）、実行力（学習面・自主活動）は減少している。アンケートの結果から、傾聴力を持って入学した生徒たちが、1年間の授業によって、主体性、課題発見・解決力、発信力を高めていったことが分かる。今後は、もともと低い「発信力」をさらに伸ばしながら、授業で培った主体性を自主活動や日常生活にも応用できるよう工夫することが求められる。

※第1回から第4回の数字（%）は「はい」と回答した割合、増減の数字（♯）は第4回から第1回の割合を差し引いた増減の値、グラフは1回目と4回目の学習面を比較

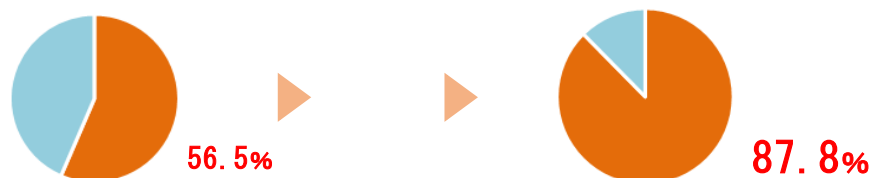
1 【主体性】 指示を待つだけでなく、物事に進んで取り組むことができた



	第1回(%)	第2回(%)	第3回(%)	第4回(%)	増減(♯)
(1) 学習面	54.6	73.0	75.4	90.5	+35.9
(2) 自主活動※	80.2	84.8	81.5	89.8	+9.6

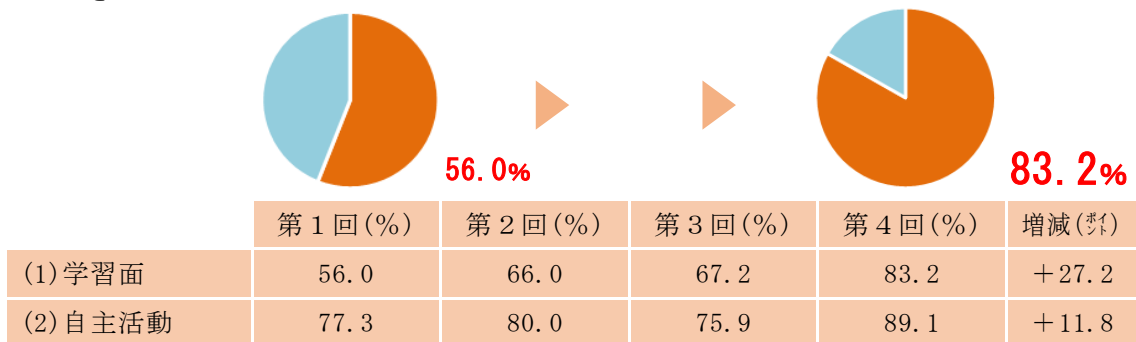
※部活動・委員会活動等

2 【実行力】 自ら目標を設定し、目標の達成のために行動することができた

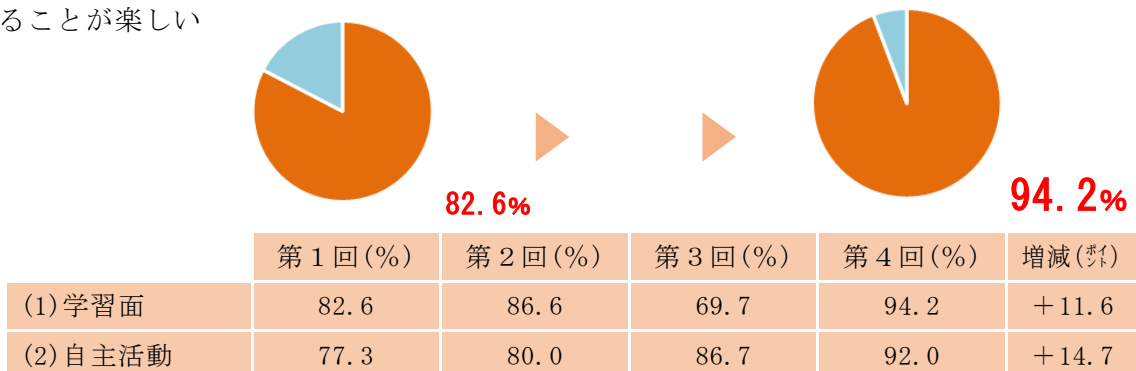


	第1回(%)	第2回(%)	第3回(%)	第4回(%)	増減(♯)
(1) 学習面	56.5	74.5	68.5	87.6	+31.1
(2) 自主活動	81.6	81.0	79.0	87.6	+6.0

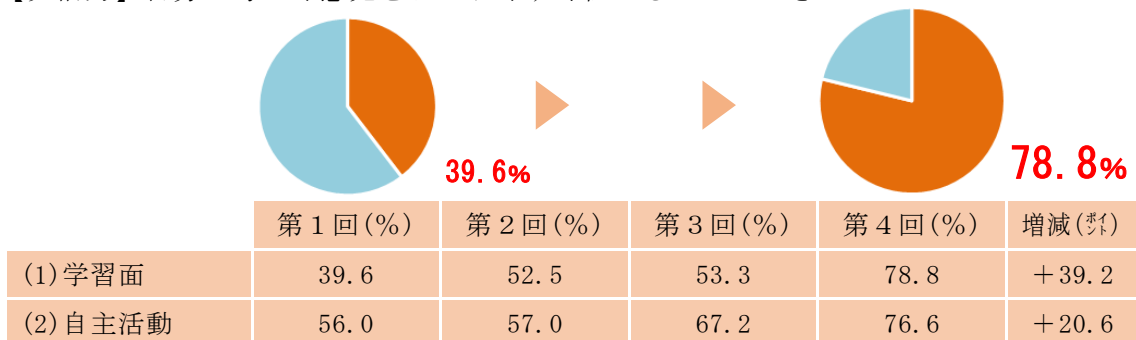
3 【課題発見・解決力】 課題を見つけて分析し、その原因を掘り下げて解決方法を考えることができた



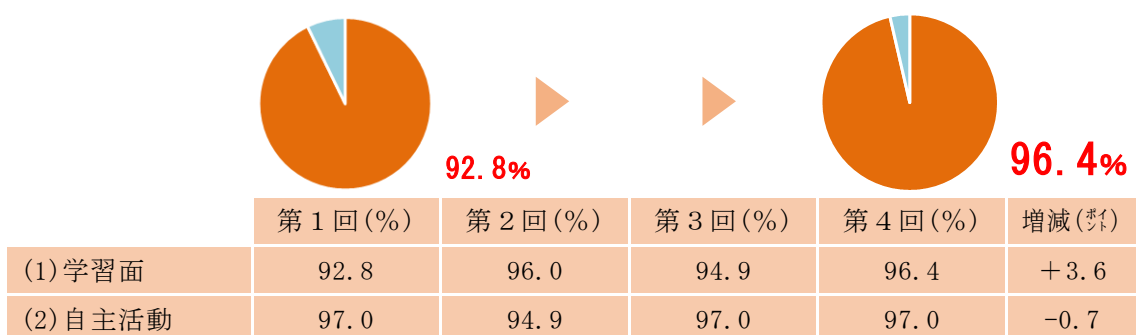
4 【創造力】 日常生活の中で、既存の商品やサービスについて新しい使い方や仕組みを考えることが楽しい



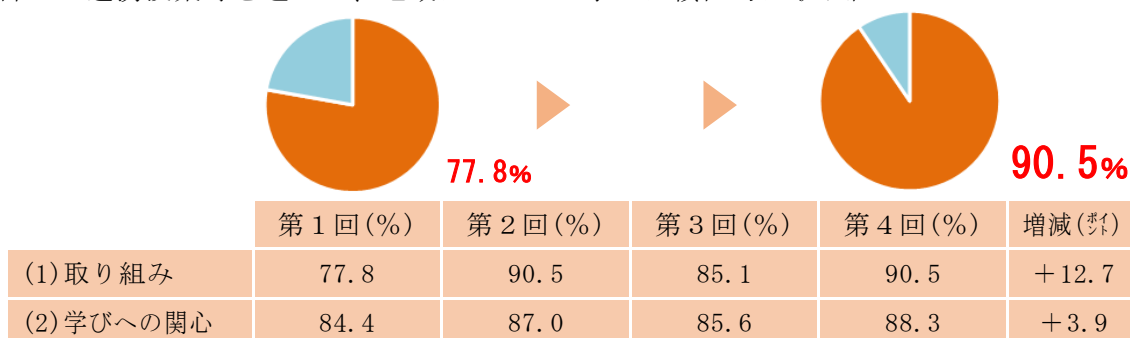
5 【発信力】 自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができた



6 【傾聴力】 先生や友達の意見を最後まで聞くことができた

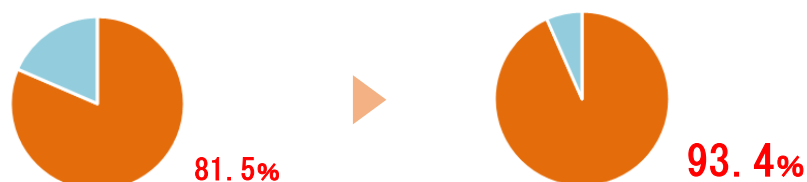


7【地域への関心・愛着心】1年間の商業の授業（1回目は「中学校の総合学習」）で、外部との連携授業等を通じて、地域についての学びに積極的に取り組んだ



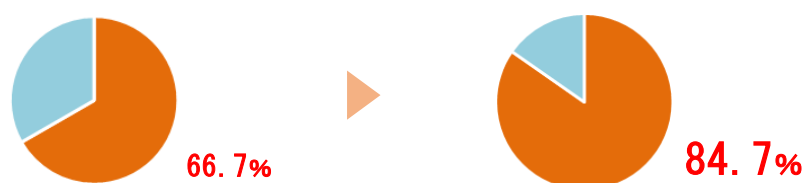
8【プロジェクトの達成度】

(1) 時事問題や社会課題に対して、当事者意識を持って、自分のこととして考えられるようになった（じぶんごと化）



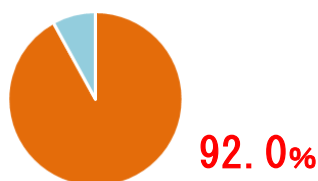
※第1回は質問項目なし（第2回と第4回の比較）

(2) さらにその問題に関して、クラスの仲間を巻き込んで情報共有したり意見を出し合ったりし、解決のためにチームで協働して行動できるようになった（みんなごと化）



※第1・2回は質問項目なし（第3回と第4回の比較）

(3) 課題研究や学校設定科目（起業マネジメント／グローバルビジネス）の授業は、とても興味・関心がわく授業であり、プロジェクト型授業に参加することが楽しい



【3年終了時】 第4回調査結果では、本プロジェクトの目標であった力が身につくこと
(3年1月) あることを実感することができた。

具体的には、入学時点では不足していた課題発見や主体的に取り組む力について、第3学年1月の時点では80%以上(主体性 35.9 ㊦増、実行力 31.1 ㊦増、課題発見・解決力 27.2 ㊦増)の生徒ができるようになったと回答している。また、発信力についても入学時の 39.6%から 39.2 ㊦増の 78.8%と大きく伸ばしている。これらの要因として、グループワークやプレゼンテーションを繰り返し、教員は進行管理や助言に徹し、生徒自身が主体となって取り組む学習活動を進めた成果だと考えている。じぶんごと化プロジェクトについてのアンケート結果についても、生徒全員とはいかないまでも、多くの生徒が社会課題に対して当事者意識をとらえることができるようになった。また、みんなごと化へのステージアップについても、84.7%の生徒が仲間を巻き込み協働できるようになったと答えている。

以上のことから、この3年間のプロジェクトを実施したことで、多くの生徒が目標であった「興味関心を持ち課題を発見する」⇒「課題をじぶんごととして捉え、解決策を探る」⇒「一人では解決できない課題に対して、仲間を巻き込みみんなごととして課題解決に導く」という3つのステップをクリアしながら、解決に導く力をつけたと考えている。

今後は、仲間だけでなく他の人を説得する力や、協力者を得る力を育てるなど、もう一段階活動を深化させたい。

(4) 研究開発の実績

ア 令和3年度実施状況

No	月	日	曜	授業	課外 ボラ	会議	事業概要
1	4	12	月	○			1年、2年、3年起業創造科 1年、2年、3年企画科 学科集会
2	4	15	木			○	- 第1回地域協働連絡会議
3	4	20	火			○	- 第2回地域協働連絡会議
4	4	22	木			○	- 第3回地域協働連絡会議
5	4	27	火			○	- 第4回地域協働連絡会議
6	5	6	木	○		○	3年企画科 第5回地域協働連絡会議 仕掛学講義(近畿大学山縣正幸教授外部講師)
7	5	11	火			○	- 第6回地域協働連絡会議
8	5	13	木			○	- 第7回地域協働連絡会議
9	5	18	火	○		○	3年起業創造科 第8回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 京都府よろず支援拠点(外部講師)
10	5	20	木	○		○	3年企画科 第9回地域協働連絡会議 華道講義、盛花体験(外部講師)
11	5	25	火			○	- 第10回地域協働連絡会議
12	5	31	月		○		3年起業創造科 京都産業大学経営学部高大接続プログラム①
13	6	3	木	○		○	3年企画科 第11回地域協働連絡会議 ベースボールプランニング(外部講師)、遊食邸(外部講師)
14	6	7	月	○			2年企画科 地域企業との商品開発①(キックオフ)
15	6	8	火	○			2年企画科 地域企業との商品開発②(キックオフ)
16	6	8	火	○		○	3年起業創造科 第12回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション てくのハウス株式会社(外部講師)
17	6	10	木			○	- 第13回地域協働連絡会議
18	6	15	火	○		○	3年起業創造科 第14回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション
19	6	17	木			○	- 第15回地域協働連絡会議
20	6	18	金	○			2年、3年起業創造科 統計数理研究所(外部講師) TOKYO STARTUP GATEWAY 2021(キックオフ)
21	6	22	火	○		○	2年、3年起業創造科 第16回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション TOKYO STARTUP GATEWAY 2021(キックオフ)
22	6	22	火	○			3年企画科 株式会社伊藤園(外部講師)
23	6	24	木	○		○	3年企画科 第17回地域協働連絡会議 動画作成講義(外部講師)
24	6	29	火	○		○	- 第18回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 株式会社フラット・エージェンシー(外部講師)
25	6	30	水	○	○		2年、3年起業創造科 TOKYO STARTUP GATEWAY 2021(代表者プレゼン) 京都産業大学経営学部高大接続プログラム②
26	7	1	木			○	- 第1回コンソーシアム会議、第1回運営指導委員会
27	7	6	火			○	- 第19回地域協働連絡会議
28	7	8	木	○		○	3年企画科 第20回地域協働連絡会議、課題研究中間報告会
29	7	9	金	○			1年起業創造科 税に係る連携授業①(外部講師)
30	7	13	火	○		○	3年起業創造科 第21回地域協働連絡会議、課題研究中間報告会 京都文教大学高大連携授業(外部講師)
31	7	15	木	○		○	1年起業創造科 3年企画科 第22回地域協働連絡会議、税にかかわる連携授業② 遊食邸プレゼンテーション(外部講師)
32	7	29	木		○		3年起業創造科 税理士事務所インターンシップ①

No	月	日	曜	授業	課外 ポラ	会議	事業概要
33	7	30	金		○		3年起業創造科 税理士事務所インターンシップ②
34	8	2	月		○		3年起業創造科 京都産業大学経営学部高大連携プログラム③(～6日)
35	8	17	火			○	- 第23回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション
36	8	19	木			○	- 第24回地域協働連絡会議
37	8	24	火			○	- 第25回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション
38	8	31	火			○	- 第26回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション
39	9	2	木	○		○	3年企画科 第27回地域協働連絡会議 本家八つ橋西尾(外部講師)
40	9	6	月	○			2年企画科 地域企業との商品開発①(商品開発プレゼンテーション)
41	9	7	火	○			2年企画科 3年起業創造科 地域企業との商品開発②③(商品開発プレゼンテーション) 株式会社Bo Project①(外部講師)
42	9	9	木	○		○	3年企画科 第28回地域協働連絡会議 遊食邸プレゼンテーション②、茶道の魅力講演(外部講師)
43	9	14	火	○		○	3年起業創造科 第29回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 株式会社Bo Project②、京都あおい税理士法人(外部講師)
44	9	16	木			○	- 第30回地域協働連絡会議
45	9	21	火	○			2年起業創造科 企業内起業プロジェクト①
46	9	21	火	○		○	3年起業創造科 第31回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 移動する竹村商店(外部講師)、京都文教大学高大連携授業報告会
47	9	22	水	○			2年起業創造科 企業内起業プロジェクト②③
48	9	25	土	○			3年起業創造科 高大社連携事業中間報告会
49	9	28	火	○		○	3年起業創造科 第32回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 龍谷大学政策学部高大連携授業①、株式会社ほんまもん(外部講師)
50	9	30	木		○	○	3年企画科 第33回地域協働連絡 台北市立士林高級商業職業学校オンライン交流
51	10	1	金	○			1年起業創造科 3年企画科 伏見税務署連携①(租税教室) みんなごと化プロジェクト世界会議プレゼンテーション
52	10	7	木			○	- 第34回地域協働連絡会議
53	10	11	月	○			1年起業創造科 伏見税務署連携②(租税教室)
54	10	12	火	○		○	1年、3年起業創造科 第35回地域協働連絡会議・伏見税務署連携③(租税教室) 龍谷大学政策学部高大連携授業②、高大社連携事業企業訪問
55	10	13	水	○			2年起業創造科 企業内起業プロジェクト④(ショートピッチ)
56	10	14	木			○	- 第36回地域協働連絡会議
57	10	15	金	○			2年起業創造科 企業内起業プロジェクト⑤⑥(ショートピッチ)
58	10	18	月	○			2年企画科 JICA海外協力隊員経験者から学ぶ新たな価値観①②(外部講師)
59	10	19	火	○		○	3年起業創造科 第37回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 地域企業連携(山田木工所・京都北山丸太生産協同組合)
60	10	19	火	○			3年起業創造科 SMBCコンシューマーファイナンス株式会社(外部講師) 龍谷大学政策学部高大連携授業③
61	10	21	木		○	○	3年企画科 第38回地域協働連絡会議 台北市立士林高級商業職業学校オンライン交流
62	10	22	金	○	○		1年、3年起業創造科 伏見税務署連携④(租税教室) 税理士事務所インターンシップ③(報告会)
63	10	23	土	○			3年起業創造科 高大社連携事業合同報告会
64	10	24	日	○	○		3年起業創造科 1年、2年企画科 向島まつりオンライン企画実践、向島魅力発信資料配布
65	10	25	月	○			1年起業創造科 伏見税務署連携⑤(租税教室)
66	10	26	火	○		○	1年、3年起業創造科 第39回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 伏見税務署連携⑥(租税教室)

No	月	日	曜	授業	課外 ボラ	会議	事業概要
67	10	26	火	○			2年企画科 JICA海外協力隊員経験者から学ぶ新たな価値観③（外部講師）
68	10	28	木	○		○	3年起業創造科 3年企画科 第40回地域協働連絡会議・地域協働課題研究報告会（みんなごと化プロジェクト実践報告）
69	10	29	金	○			3年起業創造科 地域企業連携（山田木工所・京都北山丸太生産協同組合）
70	11	2	火	○		○	3年起業創造科 第41回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 龍谷大学政策学部高大連携授業④
71	11	2	火	○			2年起業創造科 企業内起業プロジェクト⑦（クラス内最終プレゼンテーション）
72	11	4	木	○			3年企画科 水引・華道体験
73	11	5	金	○			2年起業創造科 企業内起業プロジェクト⑧（クラス内最終プレゼンテーション）
74	11	7	日	○			3年起業創造科 地域企業連携（京都北山杉の里総合センター訪問）
75	11	8	月	○			2年起業創造科 企業内起業プロジェクト⑨（クラス内最終プレゼンテーション）
76	11	9	火	○			3年起業創造科 城南児童館連携（税の学習高校生が先生！小学生講座）
77	11	10	水	○			2年起業創造科 企業内起業プロジェクト⑩（代表者プレゼンテーション）
78	11	11	木	○			3年企画科 京都市水族館動画作成
79	11	16	火	○		○	3年起業創造科 第42回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション
80	11	19	金	○			3年起業創造科 京都司法書士会連携授業（外部講師）
81	11	25	木	○		○	3年企画科 第43回地域協働連絡会議・茶道体験
82	11	30	火			○	- 第44回地域協働連絡会議
83	12	5	日	○		○	3年起業創造科 第45回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 京都市伏見青少年活動センター屋台出店①
84	12	7	火	○		○	3年起業創造科 第46回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 京都信用金庫連携（外部講師）
85	12	7	火	○			3年起業創造科 城南児童館連携（税の学習高校生が先生！小学生講座） SMBCコンシューマーファイナンス株式会社（企画会議参加）
86	12	9	木	○			1年起業創造科 3年企画科 伏見税務署連携⑦（課題発表会） 茶道体験
87	12	14	火	○		○	3年起業創造科 3年企画科 第47回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 京都司法書士連携（中高生のための法律教室）
88	12	15	水	○			3年企画科 小高連携（小学生にクリケットの魅力を伝えたい）
89	12	16	木			○	- 第48回地域協働連絡会議
90	12	18	土	○			3年起業創造科 3年企画科 京都市伏見青少年活動センター屋台出店② 京都ショップ開発商品の嵐山での販売実習
91	12	21	火			○	- 第49回地域協働連絡会議
92	12	23	木			○	- 第50回地域協働連絡会議
93	1	6	木			○	- 第51回地域協働連絡会議
94	1	11	火	○		○	3年起業創造科 第52回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション
95	1	11	火	○			3年起業創造科 新しい仕事を考える （地域協働学習実施支援員との面談）
96	1	13	木	○		○	3年企画科 第53回地域協働連絡会議・企画科課題研究最終発表会
97	1	18	火	○		○	3年起業創造科 第54回地域協働連絡会議・課題研究ファシリテーション 龍谷大学政策学部高大連携授業⑤（発表）、地域企業連携（外部講師）
98	1	20	木			○	- 第55回地域協働連絡会議・令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業全国サミット（報告）
99	1	25	火	○		○	3年起業創造科 第56回地域協働連絡会議・起業創造科課題研究最終発表会
100	2	3	木			○	- 第57回地域協働連絡会議

No	月	日	曜	授業	課外 ポラ	会議	事業概要	
101	2	5	土		○		-	スペシャリストネットワーク京都オンライン合同発表会
102	2	9	水	○			2年起業創造科	京都産業大学経営学部高大接続プログラム①（2年生キックオフ）
103	2	10	木			○	-	第58回地域協働連絡会議
104	2	14	月	○			2年企画科	JICA海外協力隊員経験者から学ぶ新たな価値観④（外部講師）
105	2	18	金	○		○	1年、2年起業創造科 2年企画科	第59回地域協働連絡会議、“かっこいい大人”ダイアログ①②（外部講師）じぶんごと化プロジェクト企画発表会
106	2	19	土	○			3年企画科	仕掛学研究会研究発表会
107	2	21	月	○			1年、2年起業創造科	“かっこいい大人”ダイアログ③④（外部講師）
108	2	21	月	○			2年企画科	JICA海外協力隊員経験者からまなぶ新たな価値観⑤⑥（外部講師） ビジネスシーンにおけるフォントやデザインの役割（外部講師）
109	2	22	火	○		○	1年、2年起業創造科	第60回地域協働連絡会議 “かっこいい大人”ダイアログ⑤⑥（外部講師）
110	2	22	火	○			2年企画科	ビジネスシーンにおけるフォントやデザインの役割（外部講師）
111	2	24	木			○	-	第61回地域協働連絡会議
112	2	26	土			○	-	第62回地域協働連絡会議
113	2	27	日			○	-	第63回地域協働連絡会議
114	3	10	木			○	-	第64回地域協働連絡会議
115	3	15	火			○	-	第65回地域協働連絡会議
116	3	17	木			○	-	第66回地域協働連絡会議
117	3	18	金			○	-	令和3年度運営指導委員、コンソーシアム合同会議
118	3	24	木			○	-	第67回地域協働連絡会議

※上記実施状況には計画分も含む

イ グランドデザイン・ルーブリック・グラフィックレコーディングの活用

新学科がスタートするにあたり、学科が育成すべき人間像を明確にするために学科グランドデザインを作成した。また、学科目標に準じたプロジェクト時の評価基準として学科ルーブリックも作成した。

- ・ 起業創造科グランドデザイン
- ・ 起業創造科ルーブリック
- ・ 起業創造科「起業マネジメント」グラフィックレコーディング
- ・ 企画科グランドデザイン
- ・ 企画科ルーブリック
- ・ 企画科「グローバルビジネス」グラフィックレコーディング

- 学校経営目標「教育方針（人間像）」をもとに、起業創造科が目指すものと、そこに到達するための方法や内容を示している。
- 起業創造科に関わる全教職員、全生徒がこのグランドデザインを理解・共有する。
- 年度・学期初めのオリエンテーションやホームルーム活動、プロジェクトごとのアンケートなど、様々な場面で活用する。
- 「起業創造科を卒業すると、何ができるようになるか」は、学科ルーブリック「学科目標」と一致している。

京都すばる高校が目指す人間像

- 1 広い教養と豊かな情操を持ち、確かな学力を備えた質実清楚な人間
- 2 主体的、継続的に学ぶ意欲を持ち、深い専門性と新たな分野への適応力を備えた人間
- 3 創造力と豊かな国際感覚を持ち、社会に貢献できる人間
- 4 日本の伝統や文化を重んじるとともに、社会変動の激流の中でも生き抜く体力と知力を備えた人間
- 5 正しい倫理観と正義感をあわせ持ち、深い他者理解の精神を備えた人間

2020年度学校経営目標の1「教育方針」より

起業創造科のキャッチコピー：「起業家精神で地域社会をデザインする」

起業創造科を卒業すると、何ができるようになるか (学科の学びを通して育成すべき資質・能力)

- 1 地域の諸課題に関心を持ち「じぶんごと化」「みんなごと化」できる（関心・意欲・態度）
- 2 起業家精神をもって、一歩踏み出す行動ができる（思考・判断・表現）
- 3 様々な経営資源を生かし、新しい価値を創り、評価・改善できる（技能）
- 4 会計やマネジメントに関する知識を持ち、それらを適切に活用できる（知識・理解）

起業創造科で何を学ぶか

※2021年度入学生

- ◆ 1年次 ー基礎・基本ー
ビジネス基礎（2）、簿記（5）、情報処理（3）
- ◆ 2年次 ー実践・応用ー
起業マネジメント（3）、財務会計Ⅰ（3）、原価計算（3）
- ◆ 3年次 ー深化・探究ー
起業マネジメント（3）、課題研究（3）、ビジネス情報（2）、ビジネス実務（選択2）、財務会計Ⅱ（選択2）、経済活動と法（選択2）

起業創造科でどのように学ぶか

主体的・対話的で深い学びを通して、生きて働く知識・技術を習得し、新しい時代にビジネスの視点から貢献できる資質・能力を育成

- ◆ 起業マネジメント（2・3年次）
地元地域や企業等と連携して、地域学やマネジメント等の学習内容を踏まえ、リアルな地域課題を発見し解決のために、どのように周囲の人を巻き込んでいくかを考え、ビジネスアイデアを提案する
- ◆ 商いリサーチ（1年次・ビジネス基礎及び簿記）
（2年次・会計分野の科目及び起業マネジメント）
商店街が担う街づくりや株式会社の経営モデル、ビジネスにおける簿記会計の必要性についての実地調査を行い、リアルなビジネス環境を身近に感じさせ理解を深める
- ◆ 課題研究（3年次）
少人数のグループで探究・研究を行い、これまでの学びを深化させる

入学時の生徒の姿

- ◆ 住まう地域としっかりと向き合い、地域のために力を発揮したいと考えている
- ◆ 元気で明るい、メリハリがない
- ◆ コツコツと積み上げることが苦手で、集中力が持続しない



学科ルーブリック【起業創造科】



- ・この評価表は、年度もしくはプロジェクトの開始時と終了時に、示し説明する。プロジェクト中に中間評価を行う場合なども、積極的に提示する。
- ・「学科目標」は、学科ルーブリックの「起業創造科を卒業すると、何ができるようになるか」と対応している。

評価の観点・項目			到達度					
教科目標	学科目標	評価項目	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
1 【関心・意欲・態度】	ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている	地域の諸課題に関心を持ち「じぶんごと化」「みんなごと化」できる	地域の諸課題を「じぶんごと化」できる	地域の諸課題に気づいていない	地域の諸課題に気づいている	地域の諸課題に気づき、それを解決することに関心を持っている	地域の諸課題に関心を持ち、その解決を目指して取り組もうとする	地域の諸課題に関心を持ち、その解決を目指して具体的な企画ができる
			地域の諸課題をビジネスの視点から「みんなごと化」できる	地域の諸課題とビジネスの関わりに気づいていない	地域の諸課題がビジネスの視点から解決できることに気づいている	レベル3に加え、それを周囲の人と共に取り組もうとする	レベル4に加え、それに多くの人を巻き込む仕掛けを考へることができる	
2 【思考・判断・表現】	ビジネスの諸活動に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている	起業家精神をもって、一歩踏み出す行動ができる	起業家精神をもつことができる	起業家精神をもっていない	起業家精神をもっている	起業家精神を持ち、他者と物事を進めることができる	起業家精神を持ち、他者に働きかけ巻き込もうとしている	起業家精神を持ち、ビジネスとして一定の成果を挙げることができる
			一歩踏み出す行動ができる	一歩踏み出す行動ができない	一歩踏み出そうと行動している	自らの創造力で一歩踏み出そうと挑戦している	自らの創造力で一歩踏み出そうと行動ができる	既存の枠組みにとらわれず、一歩踏み出す行動ができる

学科ルーブリック【起業創造科】

評価の観点・項目			到達度	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
3 【技能】	教科目標	学科目標	評価項目					
3 【技能】	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している	様々な経営資源を生かし、新しい価値を創り、評価・改善できる	様々な経営資源を生かし、新しい価値を創り出すことができる	様々な経営資源を生かすことができず、新しい価値を創り出すことができない	様々な経営資源を生かそうとしている	様々な経営資源を生かし、新しい価値を創り出そうとしている	様々な経営資源を生かし、新しい価値を提案できる	様々な経営資源を生かし、巻き込みながら新しい価値を創り出すことができる
			試行錯誤を繰り返し、評価・改善することができる	評価・改善をしようとしていない	他人からの助言をもとに試行錯誤しようとしている	他人からの助言をもとに試行錯誤し、評価・改善しようとしている	他人からの助言をもとに試行錯誤し、評価・改善し、具体的な根拠をもとに提案できる	他人からの助言をもとに試行錯誤し、評価・改善し、具体的な根拠をもとに提案し、価値を創り出すことができる
4 【知識・理解】	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している	会計やマネジメントに関する知識を持ち、それらを適切に活用できる	会計分野に関する知識を身に付け、それらを適切に活用できる	会計分野に関する知識が身に付いていない	会計分野に関する知識を5割程度身に付けている	会計分野に関する知識を7割程度身に付けている	会計分野に関する知識を身に付け、他の3分野の知識が相互に関連することを理解している	会計分野を軸に、他の3分野の知識を関連付けて活用できる
			マネジメント分野に関する知識を身に付け、それらを適切に活用できる	マネジメント分野に関する知識が身に付いていない	マネジメント分野に関する知識を5割程度身に付けている	マネジメント分野に関する知識を7割程度身に付けている	マネジメント分野に関する知識を身に付け、他の3分野の知識が相互に関連することを理解している	マネジメント分野を軸に、他の3分野の知識を関連付けて活用できる

【起業創造科】
起業マネジメント

～創造実習～

人を巻き込む力

『地域学 + マネジメント』



実践の土台となる学問の学び



実践に合わせて授業がカスタマイズ!

入学前



地域のために力を発揮したい。
何かしたいけど...

『事業提案』



アイデアを形に

起業家精神で
地域社会をデザインする人へ!
卒業後



3年生からは
提案から実現まで、深める



「じばんど化」から「みんなんど化」へ
共感と創造

ほんものの起業家に出会う

『カッコいい大人から学ぶ』

career up!!



動画併用型教材

『新しい仕事の作り方』

自分の生き方を考える

実際に
学校と地域を行き来する



リアルを知る・課題発見

他科目と
連動!!

『商いリサーチ』

実際の会計と
ビジネスモデルにふれる



- 学校経営目標「教育方針（人間像）」をもとに、企画科が目指すものと、そこに到達するための方法や内容を示している。
- 企画科に関わる全教職員、全生徒がこのグランドデザインを理解・共有する。
- 年度・学期初めのオリエンテーションやホームルーム活動、プロジェクトごとのアンケートなど、様々な場面で活用する。
- 「企画科を卒業すると、何ができるようになるか」は、学科ルーブリック「学科目標」と一致している。

京都すばる高校が目指す人間像

- 1 広い教養と豊かな情操を持ち、確かな学力を備えた質実清楚な人間
- 2 主体的、継続的に学ぶ意欲を持ち、深い専門性と新たな分野への適応力を備えた人間
- 3 創造力と豊かな国際感覚を持ち、社会に貢献できる人間
- 4 日本の伝統や文化を重んじるとともに、社会変動の激流の中でも生き抜く体力と知力を備えた人間
- 5 正しい倫理観と正義感をあわせ持ち、深い他者理解の精神を備えた人間

2020年度学校経営目標の1「教育方針」より

企画科のキャッチコピー：「企画力で京都と世界をつなぐ」

企画科を卒業すると、何ができるようになるか (学科の学びを通して育成すべき資質・能力)

- 1 世界の諸課題に関心を持ち「じぶんごと化」「みんなごと化」できる（関心・意欲・態度）
- 2 異なる意見や価値観を尊重しながら「誰かのために」考え、行動できる（思考・判断・表現）
- 3 「伝わる企画書」を作成し、説得力のある提案やプレゼンテーションができる（技能）
- 4 マーケティングやビジネス情報に関する知識を身に付け、それらを適切に活用できる（知識・理解）

企画科で何を学ぶか

※2021年度入学生

- ◆ 1年次 ー基礎・基本ー
ビジネス基礎（2）、マーケティング（2）、簿記（3）、情報処理（3）
- ◆ 2年次 ー実践・応用ー
グローバルビジネス（2）、商品開発（2）、メディアデザイン（2）、ビジネス情報（3）
- ◆ 3年次 ー深化・探究ー
グローバルビジネス（2）、課題研究（4）、ビジネス実務（2）、プログラミング（選択2）、ビジネス経済（選択2）、経済活動と法（選択2）

企画科でどのように学ぶか

主体的・対話的で深い学びを通して、生きて働く知識・技術を習得し、新しい時代にビジネスの視点から貢献できる資質・能力を育成

- ◆ じぶんごと化プロジェクト（1年次・ビジネス基礎）
あえて「これまで縁遠かったもの」を題材に、課題解決の企画を行う
- ◆ みんなごと化プロジェクト（2年次・グローバルビジネス）
開発途上国の諸課題に関心を持ってもらい、ビジネス視点の課題解決に巻き込むための企画を行う
- ◆ 商品開発（2年次）
企業と連携して商品を開発し、販売学習「京都すばるデパート」で販売する
- ◆ 課題研究（3年次）
少人数のグループで探究・研究を行い、これまでの学びを深化させる

入学時の生徒の姿

- ◆ 素直で明るく、コミュニケーション力が高い
- ◆ 語学力やプレゼンテーション力を伸ばしたいと考えている
- ◆ 数字に弱く、ビジネス計算や、グラフ・表・データの活用が苦手